

松戸市立博物館年報

第24号 - 平成28年度 (2016)



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

はじめに

平成28年度の当館の活動についてご報告させていただきます。

まず、展覧会ですが、春には館蔵資料展「幸田貝塚の世界」を開催いたしました。国の重要文化財である出土品を中心に、幸田貝塚に暮らした縄文時代の人々の生活を考えてみました。子供向けの解説やイベントにも力を入れました。

夏には館蔵資料展「くらしのなかの着物」を開催いたしました。今はほとんど着る機会のない着物ですが、洋装が普及する以前、私たちの生活の中で着物がどのように使われていたかを示しました。

秋には企画展「石斧と人－3万年のあゆみ」を開催いたしました。縄文時代の主要な道具である石斧を取り上げ、その歴史と変遷、使い方などについて、ニューギニアの民族資料や、使用実験の映像を交えてわかりやすく展示しました。また、市内河原塚遺跡で見られた、石斧を埋納するという全国的に珍しい事例にも焦点を当てました。

冬は、学習資料展「昔のくらし探検」です。小学校3年生の社会科の単元にあわせた展示で、毎年多くの小学生が団体見学で訪れています。昨年度は市内42校、市外13校から多数の小学生がみえ、展示物にさわったりして熱心に勉強していました。また、認知症予防など、高齢者福祉にも活用して頂いています。

さて、博物館では近年いくつか新しい企画を始めていますが、昨年立ち上げた新しい企画を2つご紹介します。

1つは「松戸市立博物館アワード」です。市内外の小・中・高校生の皆さんに呼びかけ、「歴史」「松戸」という大きなテーマに、自由研究とイラストでチャレンジしていただきました。その結果、29校から、自由研究部門156点、イラスト部門150点もの応募がありました。この中から優秀作品を選び、授賞式が12月5日に行われ、6日から18日まで作品展が開催されました。

もう1つは「江戸落語を聞く会」です。松戸宿が舞台となる「紋三郎稲荷」などを演じて頂き、好評を博しました。

いずれも今後の発展が期待されます。

最後になりましたが、昨年度も「博物館友の会」をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力を賜り、博物館の事業を進めることが出来ました。厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成29年 8月31日

松戸市立博物館

I	沿革	3
II	施設の概要	5
III	事業の概要	6
	1 常設展示	
	(1)総合展示	
	(2)主題展示	
	(3)野外展示	
	(4)映像展示	
	2 資料・企画展示	9
	(1)館蔵資料展「幸田貝塚の世界」	
	(2)館蔵資料展「くらしのなかの着物」	
	(3)企画展「石斧と人—3万年のあゆみ」	
	(4)学習資料展「昔のくらし探検」	
	(5)ミニ写真展	
	(6)第2回松戸市展選抜展	
	(7)松戸市小中学生優秀作品展	
	3 学習支援	22
	(1)講演会	
	(2)講座	
	(3)体験学習	
	(4)ミュージアムシアター・プレイルーム	
	(5)館内公開	
	(6)ガイドツアー（常設展示解説）	
	(7)情報提供	
	(8)博物館実習	
	(9)教員・生徒・児童の職場研修・職場体験学習の受け入れ	
	4 協働事業	41
	(1)姉妹都市提携45周年記念事業「オーストラリアの魅力と姉妹都市45年の歴史」	
	(2)ナイトミュージアム&昆虫ナイトウォッチング	
	(3)博物館デー	
	(4)松戸市PTA連絡協議会研修会	
	5 調査・研究	43
	(1)研究員の活動	
	(2)学芸員の活動	
	6 資料の収集と利用	47
	(1)資料の収集	
	(2)博物館資料の貸出	
	(3)博物館資料の特別利用	
	(4)資料の燻蒸等	
	7 平成28年度常設展示・企画展示等アンケート結果	50
	(1)平成28年度常設展示	
	(2)館蔵資料展「幸田貝塚の世界」	
	(3)館蔵資料展「くらしのなかの着物」	
	(4)企画展「石斧と人—3万年のあゆみ」	
	(5)学習資料展「昔のくらし探検」	
IV	組織と運営	55
	1 組織	
	2 歳出予算	
	3 事務事業	
	4 各種委員会等	
	5 博物館利用者数の統計	
	6 来訪者	
V	条例・規則	61

I 沿 革

月 日	事 項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50㎡)
昭和46年4月	(助)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47㎡)
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330㎡)
昭和56年3月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。 松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定
5月	松戸市美術館構想調査会発足[委員7名]
昭和58年8月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18回開催)
昭和59年4月	社会教育部内に美術館準備室設置
6月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足[委員10名]
11月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年3月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和63年9月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置[委員15名]
10月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
11月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足[委員10名]
12月	建設用地を総合公園「21世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足[委員8名]
平成元年3月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
4月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
8月	総合公園「21世紀の森と広場」内に建設位置決定
11月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足[委員8名] 展示基本設計を(株)乃村工藝社に委託
12月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成2年2月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
3月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
6月	展示実施設計を(株)乃村工藝社に委託
9月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成3年9月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工藝社に委託、工事・製作着手
平成4年1月	外構工事着手
3月	植栽工事着手
4月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
6月	建築工事、外構工事竣工
7月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
9月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)

12月	野外展示工事竣工
平成5年1月	展示工事竣工
3月	松戸市立博物館管理運営規則制定
4月	松戸市立博物館開館(29日) 初代岩崎卓也館長就任
10月	松戸市立博物館協議会発足[委員10名]
平成6年4月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管
6月	館蔵「幸田貝塚出土品」266点 国重要文化財指定(28日付)
平成7年6月	博物館登録 千葉県教育委員会 平成7年6月9日 登録番号第30号 博物館資料数 4,385点 <ul style="list-style-type: none"> (歴史資料 1,686点 考古資料 2,650点 民俗資料 49点
平成8年10月	博物館等資料選定評価委員会発足[委員5名]
平成9年3月	博物館開館5周年記念特別展示(期間:3月20日から5月11日まで) 「シルクロードとガンダーラ」展を実施
平成10年4月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年6月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間:10月11日から11月30日まで)「川の道 江戸川」展を実施
平成18年10月	松戸市根本内歴史公園開園記念 企画展「戦国の城をさぐる」実施(期間:10月7日から11月26日まで)
平成19年12月	松戸市立博物館友の会設立5周年活動記録「5年のあゆみ」刊行
平成20年3月	初代岩崎卓也館長退任
4月	2代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称
10月	松戸市立博物館開館15周年記念特別展示(期間:10月11日から12月7日まで) 「縄文時代の東・西」展を実施
平成21年5月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手。
平成23年3月	東日本大震災発生(11日)
4月	観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年3月	2代関根孝夫館長退任
4月	3代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示(期間:10月5日から11月24日まで)「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」展を実施
平成26年12月	「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」を制定(平成27年4月1日施行)
平成27年2月	『松戸市史 上巻(改訂版) 原始・古代・中世』を刊行

Ⅱ 施設の概要

建築の概要

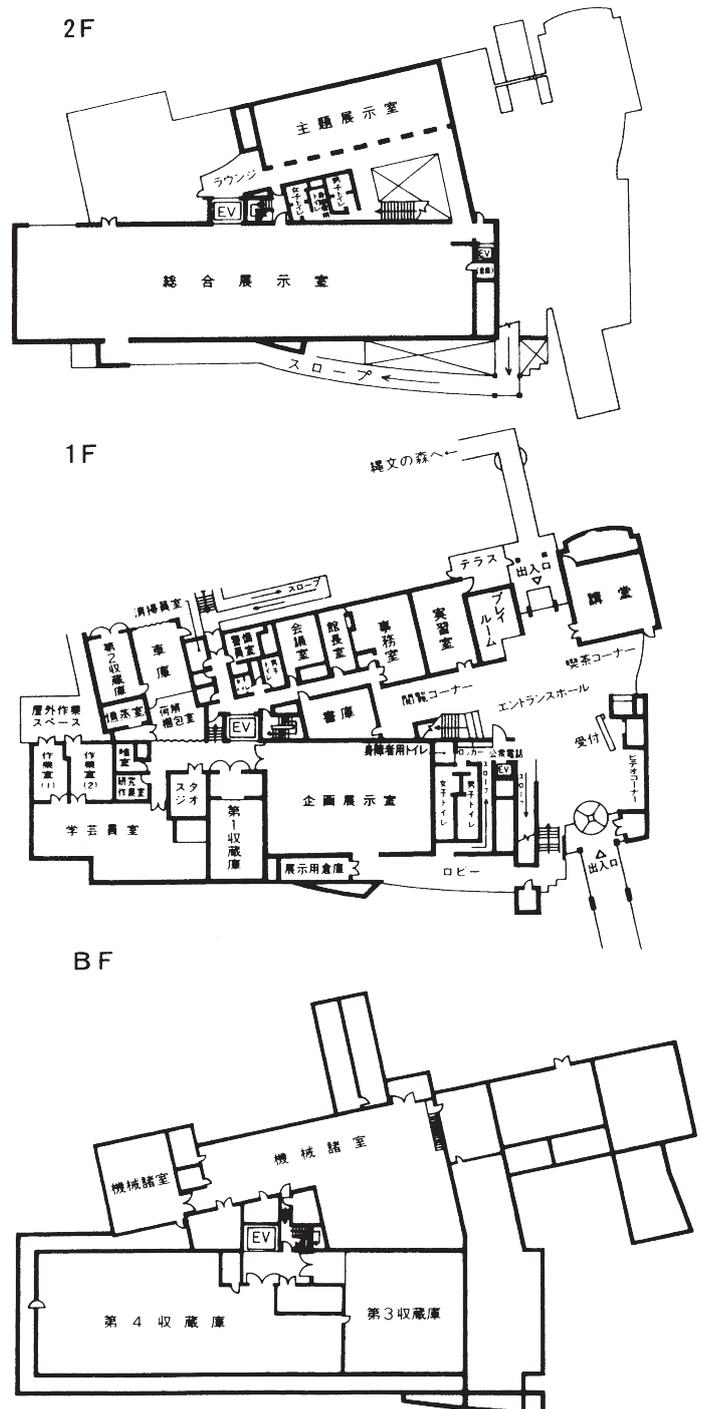
- 1)敷地面積 7,795.81㎡ 2)建築面積 2,709.92㎡
 3)延床面積 5,446.73㎡ 1階 2,515.17㎡/2階 1,542.92㎡/地下1階 1,388.64㎡
 4)階数 地下1階・地上2階 5)構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC梁構造)
 6)高さ 14.4m

注)博物館周辺環境との調和をはかるため高さを15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても10m以内に制限して建設を行った。

[各室の面積]

区分	室名	室数	階層	面積(㎡)
展示部門	総合展示室	1	2	873.40
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.20
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸室	1	1	31.32
	小計			1,070.21
教育普及部門	講堂	1	1	124.88
	実習室	1	1	70.97
	プレイルーム	1	1	51.60
	閲覧コーナー	-	1	78.80
	ビデオコーナー	-	1	45.66
	小計			371.91
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸員室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.30
	研究作業室	1	1	16.99
小計			300.97	
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	-	B1	575.49
	管理共有部分	-	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	-	1	333.12
	喫茶コーナー	-	1	56.29
	ロビー	-	1	106.32
	スロープ	-	-	196.91
	共有部分	-	-	379.53
	小計			1,072.17
合計			5,446.73	

[各階の平面図]



Ⅲ 事業の概要

1 常設展示

(1) 総合展示

ゾーン1 人類の登場

■ 松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料(石器)の展示については、単に「石」の羅列にならないように、3つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン2 狩りと採集のムラ

■ 縄文人の暮らし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■ ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■ 人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン3 稲作社会の誕生

■ 米作りの暮らし

弥生時代になって中国大陸や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■ 古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン4 下総国のはじまり

■ 古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン5 武士と民衆

■ 千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■ 中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン6 町場と村

■ 近世の村

近世社会に入ったころの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53の村(新田村を含む)に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■ 宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の2つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■ 小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ヶ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計4回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など4か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン7 都市へのあゆみ

■ 松戸1868～1960

近代を迎えた松戸は葛飾県、印旛県をへて千葉県に編入される。郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流鉄、東武野田線(いずれも現在の名称)が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■ 下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタームから、市域を江戸川低地(下谷)、下総台地の開析谷周辺(谷津)、下総台地の平坦面(台)の3種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとって先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■ 常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の2DKのなかに復元されている。

(2) 主題展示

主題1 考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遙か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題2 虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近世前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと。また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題3 二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前(江戸時代)から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題4 三匹獅子舞

松戸市内の3地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が3人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ(獅子)が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演じ方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

(3) 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居3棟を原寸復元した。常時、竪穴住居1棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

(4) 映像展示

ビデオコーナー

■ ビデオ映像

松戸市内に関わりのある映像ソフト7作品を製作して公開している。

- ①大地に埋もれた歴史
- ②町並み今昔物語
- ③富士講
- ④万作を語る
- ⑤三匹獅子舞～和名ヶ谷～
- ⑥三匹獅子舞～上本郷～
- ⑦三匹獅子舞～大橋～

2 資料・企画展示

(1) 館蔵資料展「幸田貝塚の世界」

◆展示意図

幸田貝塚は、松戸市の北部に所在する縄文時代の遺跡であり、そこから発見された土器や石器をはじめとする資料は、国の重要文化財に指定されている。本展示では、幸田貝塚出土品を展示し、当時の人々のくらしを紹介するとともに、「貝塚とは何か」を改めて考えてみた。また、地元発見の遺跡・遺物を身近に感じ、縄文時代の歴史を学び、体感する場とする意図で本展示を実施した。

- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 小林孝秀(当館学芸員))
- ◆後援 (公財)松戸市文化振興財団
- ◆協力 新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社
- ◆会期 平成28年4月26日(火)～6月12日(日)(41日間)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 5,248人
- ◆観覧料 無料
- ◆印刷物

ポスター	B 2判	300枚
チラシ	A 4判	10,000枚
展示品目録	A 4判(館で印刷)	800部
縄文クイズ	A 5判(館で印刷)	1,000部
	(こどもワークシート)	



◆関連企画

・「たのしいイベントに参加しよう」

(こども・家族向け展示関連プログラム)

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 平成28年4月26日(火)～6月12日(日)

内容 ①縄文クイズ(こどもワークシート)

(展示品をじっくり観察しながらクイズに挑戦。場所:企画展示室)

②縄文パズルに挑戦

(縄文人の道具をパズルで体感。場所:企画展示室)

③貝当て・土器当てクイズ

(箱の中身はどんな土器か? 貝か? 手で触って当ててみよう。場所:企画展示室)

④縄文衣装の試着体験

(縄文ファッションを楽しもう。写真を撮って見学の記念に。場所:企画展示室)

⑤ぬりえ&しおりづくり

(展示してある土器などをモチーフにしたぬり絵。パウチ加工してオリジナルしおりをつくってみよう。場所:企画展示室前ロビー・閲覧コーナー)

参加人数 ①～④集計なし ⑤667人

・「縄文グッズをつくろう」

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 5月5日(木・祝) 13時00分～(所要時間は約15分、材料が無くなり次第終了。)

講師 小林孝秀(当館学芸員)、鶴沼 豊(当館学習支援専門員)

参加人数 50人

内容 樹脂粘土で土偶グッズを製作

・「幸田貝塚で学ぶ考古学入門(展示解説会)」

対象者 一般(こどもから大人まで)

開催月日 平成28年4月29日(金・祝)、5月1日(日)・15日(日)、6月12日(日)

講師 小林孝秀(当館学芸員)

参加人数 延べ67人

◆展示資料リスト

I. 幸田貝塚と縄文人の暮らし

◎:重要文化財

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
◎ 1	打製石斧	幸田貝塚	縄文時代前期	4
◎ 2	磨製石斧	幸田貝塚	縄文時代前期	2
◎ 3	石匙	幸田貝塚	縄文時代前期	4
◎ 4	石錐	幸田貝塚	縄文時代前期	4
◎ 5	骨製針	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 6	異形石器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 7	球状耳飾	幸田貝塚	縄文時代前期	4
◎ 8	石鏃	幸田貝塚	縄文時代前期	10
◎ 9	刺突具	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 10	石皿	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 11	磨石	幸田貝塚	縄文時代前期	3
◎ 12	縄文土器片	幸田貝塚	縄文時代前期	3
◎ 13	片口付深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 14	深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 15	片口付深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 16	台付土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 17	片口付深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 18	片口付深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 19	片口付深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 20	片口付深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 21	片口付深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 22	片口付小型土器	幸田貝塚	縄文時代前期	2
◎ 23	深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1
◎ 24	深鉢形土器	幸田貝塚	縄文時代前期	1

II. 変化する縄文人の社会

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
25	注口土器	貝の花遺跡	縄文時代後期	1
26	注口土器	貝の花遺跡	縄文時代後期	1
27	注口土器	貝の花遺跡	縄文時代後期	1
28	土偶	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	2
29	土偶	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	2
30	石棒	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	1
31	石剣	貝の花遺跡	縄文時代晩期	1
32	耳飾	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	5
33	貝輪	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	2
34	腰飾	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	2
35	土版	貝の花遺跡	縄文時代晩期	4
36	異形土器	貝の花遺跡	縄文時代晩期	1

III. 貝塚とは何か？

No.	資料名	遺跡名	時期	点数
37	人骨	幸田貝塚	縄文時代前期	4
38	獣骨(イノシシ)	幸田貝塚	縄文時代前期	2
39	獣骨(シカ)	幸田貝塚	縄文時代前期	2

(2) 館蔵資料展「くらしのなかの着物」

◆展示意図

現在の私たちは、普段、洋服で生活し、着物を着ることは、ほとんどない。着物を着ることは、七五三や成人式、結婚式などの人生の節目や正月、花火見物などの特別な機会に限られている。本資料展では、くらしのなかで身近な存在であった着物の姿を表したいと企画した。このような着物の姿を表すために、普段着、晴れ着などの様々な用途や季節に合わせた着物を展示するとともに、洗い張りなどの着物にまつわるくらしを紹介した。

- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木俊也<当館学芸員>)
- ◆後援 (公財)松戸市文化振興財団
- ◆協力 新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社
- ◆会期 平成28年7月16日(土)～9月4日(日)(44日間)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 2,107人
- ◆観覧料 無料
- ◆印刷物

ポスター	B2判	300枚
チラシ	A4判	10,000枚
リーフレット	A3判二つ折	2,000枚(館で印刷)



◆展示資料リスト

<1>女の人の着物

(1) 単衣の着物<6月から9月>

番号	資料名	布	柄
1	女物長着単衣	木綿	緋
2	女物長着単衣	絹	緋
3	女物長着単衣	絹	縞
4	女物長着単衣	絹	とんぼ
5	女物長着単衣	絹	縞
6	女物長着単衣	絹	たずな・なでしこ・つゆくさ
7	女物長着単衣	麻	緋
8-1	女物三紋付き羽織単衣	絹	波・片輪車
8-2	女物長着単衣	絹	縞

(2) 袷の着物<10月から5月>

番号	資料名	布	柄
9	女物長着袷	(表)絹(裏)胴裏/木綿・裾回し/ウール	緋
10	女物長着袷	(表)絹(裏)絹	縞
11-1	女物長着袷	(表)絹(裏)胴裏/木綿・裾回し/絹	縞
11-2	女物袋帯	(表)絹(裏)絹	花・唐草・鳥
12-1	女物羽織袷	(表)絹(裏)絹	緋
12-2	女物長着袷	(表)絹(裏)絹	縞
13	女物羽織袷	(表)絹(裏)絹	縞と緋
14-1	女物羽織袷	(表)絹(裏)絹	緋
14-2	女物長着袷	(表)絹(裏)絹	縞
15-1	女物羽織袷	(表)絹(裏)絹	あられ
15-2	女物長着袷	(表)絹(裏)絹	縞
15-3	女物袋帯	(表)絹(裏)絹	唐草
16-1	女物羽織袷	(表)絹(裏)絹	松葉尽くし
16-2	女物長着袷真綿じき	(表)絹(裏)胴裏/絹・裾回し/木綿	格子

< 2 > 男の人の着物

(1) 単衣の着物< 6月から9月 >

番号	資料名	布	柄
17	男物長着単衣	木綿	緋
18	男物長着単衣	木綿	緋
19	男児長着単衣	絹	緋

番号	資料名	布	柄
20-1	男物羽織単衣	絹	無地
20-2	男物長着単衣	絹	霜降り
21	男物長着単衣	麻	格子

(2) 袷の着物< 10月から5月 >

番号	資料名	布	柄
22-1	男物羽織袷	(表)絹(裏)絹	無地
22-2	男物長着袷	(表)絹(裏)絹	縞
23-1	男物羽織袷	(表)絹(裏)絹	緋
23-2	男物長着袷	(表)絹(裏)木綿	縞
23-3	男物袴	(表)絹	無地
23-4	男物角帯	(表)絹(裏)絹	格子
24-1	男物羽織袷	(表)絹(裏)絹	縞
24-2	男物長着袷	(表)絹(裏)胴裏/絹・裾回し/木綿	緋
25-1	男物羽織袷綿入り	(表)絹(裏)絹	縞
25-2	男物長着袷真綿じき	(表)絹(裏)木綿	縞
26-1	男児羽織袷	(表)木綿(裏)木綿	緋
26-2	男児長着袷	(表)木綿(裏)木綿	緋
27	男物丹前	(表)絹(裏)絹	縞
28	男物道中着	(表)絹	無地

< 3 > 人の一生の着物

番号	資料名	布	柄
29	おくるみ(復元)	木綿(ネル)	無地
30	女児産着袷(復元)	(表)絹(裏)絹	麻の葉
31	男児宮参り祝い着袷	(表)絹(裏)絹	熨斗目・鶴と松
32	女児宮参り祝い着袷	(表)絹(裏)絹	菊、紅葉、立葵などの花模様
33	女児三歳の年祝い着袷	(表)絹(裏)絹	牡丹などの花模様
34	男児年祝い着		
34-1	男児年祝い着・羽織袷	(表)絹(裏)絹	無地
34-2	男児年祝い着・長着袷	(表)絹(裏)絹	熨斗目模様
34-3	男児年祝い着・中着袷	(表)絹(裏)絹	格子
34-4	男児年祝い着・袴	(表)絹	縞
35	嫁の衣装		
35-1	嫁の衣装・振り袖比翼仕立て	(表)絹(裏)絹	(吉祥模様)
35-2	嫁の衣装・丸帯	(表)絹(裏)絹	
35-3	嫁の衣装・筥迫、扇子、櫛、笄		
36	婿の衣装		
36-1	婿の衣装・五つ紋羽織	(表)絹(裏)絹	無地
36-2	婿の衣装・五つ紋長着	(表)絹(裏)絹	無地
36-3	婿の衣装・中着	(表)絹(裏)絹	無地
36-4	婿の衣装・袴	(表)絹	縞
36-5	婿の衣装・角帯	(表)絹(裏)絹	無地
37	死装束(復元)	(表)木綿	無地

< 4 > 着物にまつわるくらし

番号	資料名
38	洗い張り(張り板)
39	針箱
40	くけ台

番号	資料名
41	尺差し
42	裁ち板
43	鋏

番号	資料名
44	火のし
45-1	野良着・上衣
45-2	野良着・股引

(3) 企画展「石斧と人－3万年のあゆみ」

◆展示意図

人と石斧との関わりは約3万年前の旧石器時代からはじまり、現代まで続く。人が最も長く使い続けた道具といえる。本展覧会では石斧の歴史の変遷をたどるとともに、3万年という長い歴史の中でみられる石斧と人との間に存在する様々な文化事象－石斧の埋納、製作、所有、流通、交換、副葬、性差－等にも目を向け、これらについて紹介した。この中でも特に石斧の埋納については、今のところ17事例しか無く、その中の一つが松戸市河原塚遺跡での発掘事例である。そこで本展覧会では、これまでに発見された、石斧の埋納事例を集成し、このような事象を再考するとともに、河原塚遺跡の発見事例の学術的な重要性を多くの市民に知ってもらう機会とした。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 大森隆志(当館学芸員))

◆後援 (公財)松戸市文化振興財団、千葉テレビ放送株式会社

◆協力 新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社、国立民族学博物館

◆会期 平成28年9月17日(土)～11月23日(水・祝)(58日間)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 2,917人

◆観覧料 一般 300円(団体240円 共通500円)

高大生 150円(団体100円 共通250円)

中学生以下 無料

◆印刷物 展示図録 A 4判 1,500冊

ポスター B 2判 700枚

B 3判 300枚

チラシ A 4判 20,000枚

展示品リスト A 3判二つ折り 400枚(館で印刷)

◆関連企画

・企画展記念講演会「磨製の石斧と旧石器時代人の生活」(会場:講堂)

対象者 一般

開催月日 平成28年10月23日(日)

講師 安蒜政雄氏(明治大学教授)

参加人数 54人

・歴史を語る②「斧を持つひと」(会場:講堂)

対象者 一般

開催月日 平成28年11月3日(木・祝)

講師 田中英司氏(東洋大学講師)

参加人数 54人

・展示解説会

対象者 一般

開催月日 平成28年9月24日(日)、10月9日(日)・22日(日)、11月6日(日)・19日(土)・23日(水・祝)

講師 大森隆志(当館学芸員)

参加人数 合計91人

・しおりづくり

期間 平成28年9月17日(土)～11月23日(水・祝)(58日間)

参加人数 497人



◆展示資料リスト

1. 石斧の歴史

No.	資料名	点数	出土遺跡(遺構)	時期	所蔵/保管	備考
1	刃部磨製石斧を含む旧石器時代の石器群	7	〈岩宿遺跡〉	〈旧石器時代〉	明治大学博物館	レプリカ
2	刃部磨製石斧を含む旧石器時代の石器群	35	南三里塚宮原第1遺跡	旧石器時代	成田市教育委員会	
3	刃部磨製石斧	1	小金城跡(第3地点)	旧石器時代	松戸市教育委員会	
4	長野県星光山荘B遺跡出土遺物	21	星光山荘B遺跡	縄文時代草創期	長野県立歴史館	
5	隆起線文土器	1	〈石小屋洞穴〉	〈縄文時代草創期〉	長野県立歴史館	レプリカ
6	長野県神子柴遺跡出土石器	7	〈神子柴遺跡〉	〈縄文時代草創期〉	長野県立歴史館	レプリカ
7	磨製石斧	10	飛ノ台貝塚	縄文時代早期	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	
8	磨製石斧	4	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会	重要文化財
9	深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会	重要文化財
10	片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会	重要文化財
11	磨製石斧	17	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会	
12・13	深鉢形土器	2	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会	
14	磨製石斧(乳棒状)	5	貝の花遺跡	縄文時代中・後期	松戸市教育委員会	
15	磨製石斧(定角式・小型)	7	貝の花遺跡	縄文時代中・後期	松戸市教育委員会	
16	深鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会	
17	注口土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会	
18	磨製石斧	4	栗谷遺跡	弥生時代中期	八千代市立郷土博物館	
19	磨製石斧	2	加村台遺跡	弥生時代中期	流山市立博物館	
20	磨製石斧	1	上本郷七畝割遺跡	弥生時代後期	松戸市教育委員会	
	磨製石斧	49	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会	
	磨製石斧	34	貝の花遺跡	縄文時代中・後期	松戸市教育委員会	

2. 石斧のすがた—横斧(よこおの)と縦斧(たておの)—

No.	資料名	点数	出土遺跡(遺構)	時期	所蔵/保管	備考
1	横斧(石斧)で伐採された切り株	1			首都大学東京考古学研究室	
2	縦斧(石斧)で伐採された切り株	1			首都大学東京考古学研究室	
3	縦斧(鉄斧)で伐採された切り株	1			首都大学東京考古学研究室	
2-1	横斧(神子柴型復元)	1			首都大学東京考古学研究室	
2-2	縦斧(鳥浜貝塚例復元)	1			首都大学東京考古学研究室	
2-3	縦斧(桜町遺跡例復元)	1			首都大学東京考古学研究室	
2-4	縦斧(滋賀里遺跡例復元)	1			首都大学東京考古学研究室	
3-1	縦斧(下郡桑苗遺跡例復元)	1			首都大学東京考古学研究室	
3-2	横斧(一般的な偏平片刃石斧と斧柄を復元)	1			首都大学東京考古学研究室	
4	縦斧(新保遺跡例復元)	1			首都大学東京考古学研究室	
	金太郎人形	1			松戸市立博物館	
	彩陶鳥魚石斧紋深鉢掲載図書	1			松戸市立博物館	

3. 旧石器時代人と石斧—石斧とナウマンゾウ—

No.	資料名	点数	出土遺跡(遺構)	時期	所蔵/保管	備考
2	刃部磨製石斧・砥石	8	日向林B遺跡	旧石器時代	長野県立歴史館	重要文化財
3	刃部磨製石斧	12	日向林B遺跡	旧石器時代	長野県立歴史館	重要文化財
4	砥石	2	日向林B遺跡	旧石器時代	長野県立歴史館	重要文化財
5	出土石器	16	日向林B遺跡	旧石器時代	長野県立歴史館	重要文化財を含む

4. 縄文時代人と石斧—石斧づくりのムラ—

No.	資料名	点数	出土遺跡(遺構)	時期	所蔵/保管	備考
1・2・3	深鉢形土器	3	六反田南遺跡	縄文時代中期	新潟県埋蔵文化財調査事業団	
	磨製石斧製作関連資料	46	六反田南遺跡	縄文時代中期	新潟県埋蔵文化財調査事業団	

5. 死者に添えられた石斧—副葬品を考える—

No.	資料名	点数	出土遺跡(遺構)	時期	所蔵/保管	備考
	208号土壙墓出土遺物	64	池内遺跡	縄文時代前期	秋田県埋蔵文化財センター	
	394号土壙墓出土遺物	14	池内遺跡	縄文時代前期	秋田県埋蔵文化財センター	
	431号土壙墓出土遺物	18	池内遺跡	縄文時代前期	秋田県埋蔵文化財センター	
	磨製石斧	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会	

6. 大切にされた石斧—土器に収蔵された石斧—

No.	資料名	点数	出土遺跡(遺構)	時期	所蔵/保管	備考
1	注口土器・磨製石斧	2	河原塚遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会	
2	鉢形土器・磨製石斧	11	秋大農場南遺跡	縄文時代晩期	秋田市教育委員会	
3	深鉢型土器・磨製石斧・搔器	6	博毛遺跡	縄文時代中期	喜多方市教育委員会	喜多方市指定文化財
4	注口土器・磨製石斧他	31	塚越向山遺跡	縄文時代中期	小鹿野町教育委員会	埼玉県指定文化財
5	注口土器・磨製石斧・黒曜石原石	10	〈上中丸遺跡〉	〈縄文時代中期〉	山梨県立考古博物館	レプリカ
6	注口土器・磨製石斧	8	武蔵台遺跡	縄文時代中期	府中市郷土の森博物館	

7. 「いのり」に使われた石斧—秋田県上掬遺跡出土磨製石斧—

No.	資料名	点数	出土遺跡(遺構)	時期	所蔵/保管	備考
1-4	磨製石斧	4	上掬遺跡	縄文時代前期	秋田県立博物館	重要文化財
	磨製石斧	1	〈上掬遺跡〉	〈縄文時代前期〉	秋田県立博物館	レプリカ

8. 石斧を使い続けた人びと—ニューギニア島に住む人びとの生活—

No.	資料名	点数	使用地	所蔵/保管	備考
1-3	石斧(横斧)	3	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
4・5	磨製石斧	11	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
6・9	石斧(横斧)	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
7・8	鉄斧(横斧)	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
10・11	石斧(縦斧)	3	インドネシア	国立民族学博物館	
12	カヌー仕上用石斧	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
13	石斧(縦斧)	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
14	石斧(横斧)	1	インドネシア	国立民族学博物館	
15・16	儀礼用石斧	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
17	戦闘用槍	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
18・19	矢	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
20	戦闘用矢	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
21	鳥用矢	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
22・23	殺人用槍	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
24・25	弓	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
26	狩猟用弓	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
27・28	盾	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
29	男子用大型カヌー用舳先	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
30	カヌー用舳先	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
31	骨製ナイフ	3	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
32	籐細工用骨角器	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
33	削り具	4	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
34	女性用櫛	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	

No.	資料名	点数	使用地	所蔵／保管	備考
35	漁撈用網	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
36	漁撈用籠	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
37	サゴヤシ用石斧(柄付)	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
38	サゴヤシ用石斧	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
39	サゴ打ち棒	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
40	サゴ団子用箸	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
41	サゴ団子製造用ヘラ	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
42	杓子	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
43	火挟み	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
44	サゴ団子用容器	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
45	サゴダンゴ作り棒	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
46	個人用網袋	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
47	櫛	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
48	ベニスケース	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
49	腕輪	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
50	耳飾り	3	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
51	鼻飾り	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
52	首飾り	5	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
53	胸飾り	3	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
54	女性用腰蓑	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
55	男性用腰蓑	1	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
56-58	婚資用胸飾り	5	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
59-61	婚資用首飾り	5	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
62	婚資用鼻飾り	2	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
63-64	婚資用耳飾り	4	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	
65-66	婚資用額飾り	3	パプア・ニューギニア	国立民族学博物館	

エピローグ

No.	資料名	点数	使用地	所蔵／保管	備考
	石斧(横斧)	1	パプア・ニューギニア	埼玉県個人蔵	
	石斧(縦斧)	1	パプア・ニューギニア	埼玉県個人蔵	
	石斧	2	パプア・ニューギニア	埼玉県個人蔵	
	土産用石斧(横斧)	1	パプア・ニューギニア	千葉県個人蔵	

(4) 学習資料展「昔の暮らし探検」

◆展示意図

学習資料展「昔の暮らし探検」は、私たちの便利な生活がどのように形づくられてきたか、そのなかで失われたかつての生活における技術、知恵などを子どもたちに伝えようと開催した。今から80年程前の市内の農家の暮らしを出発点にして、衣食住の様々な生活の変化を探検しながら現在の生活に至る、身近な生活の歴史を紹介した。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木俊也(当館学芸員))

◆会期 平成29年1月14日(土)～3月26日(日)(59日間)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 8,742人

(松戸市内小学校 42校見学)

(松戸市外小学校 13校見学)

◆観覧料 無料

◆印刷物 ポスター B2判 10枚(館で印刷)

チラシ A4判 10,000枚

リーフレット A3判二つ折り 2,000枚

探検手帳 A3判四つ折り 500枚(館で印刷)



◆関連企画

・教員向け放課後解説会(会場:企画展示室)

対象者 小学校三学年担当教員

開催月日 ①平成29年1月12日(木) ②平成29年1月26日(木)

講師 青木俊也(当館学芸員)

参加人数 ①47人②2人

・小学生学芸員による展示解説会(会場:企画展示室)

対象者 学習資料展観覧者

開催月日 平成29年1月28日(土)①14時00分～14時30分 ②15時00分～15時30分

講師 小学生学芸員 9人

参加人数 ①33人 ②31人

◆展示資料リスト

〈1〉住まう

(1)農家の住まい

資料名	
農家(模型1/20)	農家の間取り(模型1/20)

〈2〉食べる

(1)かまど

資料名				
かまど(2点)(鋳物、模型1/1)	まき	火吹き竹(2点)	十能	火挟み
火消し壺	七輪(2点)	流うちわ(2点)	炭入れ	鉄瓶

(2)ご飯を炊く

資料名				
米櫃	一升杵(2点)	五合杵(2点)	一合杵	一斗杵
斗かき	米研ぎ桶	あげざる	羽釜(2点)	飯櫃(2点)
杓文字	飯櫃入れ			

(3)おかずを煮炊きする

資料名				
鉄鍋	銅行平鍋	杓子	焼き網	焙烙
せいろ	すり鉢	すりこ木	おろし金(金属製)	おろし金(陶製)
かつお節削り	脚付きまな板	杓文字掛け	あげざる	酒徳利
醤油徳利				

(4)食卓

資料名				
普段のお膳	飯茶碗(2点)	汁椀(2点)	四つ椀	行事のお膳
ちゃぶ台(2点)	土瓶	茶碗(4点)		

(5)水まわりのくらし

資料名				
井戸車	釣瓶桶	手押しポンプ	手桶	水瓶
柄杓	流し台	洗い桶		

(6)食べ物の保存

蠅帳(2点)	甕(3点)	漬け物樽(2点)
--------	-------	----------

<3>着る

(1)着物

資料名				
野良着	女の単衣の着物	女の袷の着物と羽織	男の単衣の着物	男の袷の着物と羽織
男子の袷の着物と羽織		男子の単衣の着物		

(2)機織り

資料名			
高機	綿練り	糸車	手織りの袋

(3)裁縫

資料名				
針箱	くけ台	尺差し	裁ち板	座布団

(4)洗濯

資料名				
たらい	金だらい	洗濯板	洗濯石鹸	火のし
鍔	炭火アイロン	張り板		

<4>くらす

(1)冬のくらし

資料名				
火鉢	五徳	火箸	灰ならし	鉄瓶
炭おこし	十能(炭運び)	炭入れ	やぐら炬燵(2点)	行火
湯たんぼ(陶製)	湯たんぼ(プリキ製)	掻い巻き布団		

(2)夏のくらし

資料名				
蚊帳	蚊遣りぶた	うちわ	すだれ屏風	すだれ

(3)明かり

資料名				
燭台	行灯	ランプ(2点)	電灯	手燭
がんどう	小田原提灯			

(4)しまう

資料名				
行李(2点)	箆笥	茶箱	衣桁	布団風呂敷
鏡台				

(5)掃除

資料名				
座敷ほうき	庭ほうき	ぞうきん	バケツ	はたき

(6)聞く・見る

資料名	
蓄音機	ラジオ

<5>耕す

資料名				
下肥桶	天秤棒	肥柄杓	万能	平鋤
えぶり(しろならし)	田んぼ(模型)	田下駄	田植え定規	除草機
踏み車	足踏み脱穀機	唐箕	もみならし	万石通し
俵じょうご	米俵	箕		

(5) ミニ写真展

◆展示意図 当館に移管された松戸市役所広報課旧蔵の写真を常設展示室内で順次公開した。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 柏木一郎(当館学芸員))

◆会期 ①平成28年4月1日(金)～6月30日(木)
 ②平成28年7月1日(金)～9月30日(金)
 ③平成28年10月1日(土)～12月27日(火)
 ④平成29年1月5日(木)～3月31日(金)

◆会場 松戸市立博物館 常設展示室

◆観覧者数 単独として計上していない。

◆観覧料 常設展示観覧料に含む。

◆展示資料

①「駅前の風景」新松戸・北小金駅編

	名 称	撮影時期
1	新松戸/建設中の武蔵野線	昭和44年(1969)
2	新松戸駅/開駅式	昭和48年(1973)3月30日
3	新松戸駅/開駅式	昭和48年(1973)3月30日
4	新松戸/流鉄の電車	昭和50年頃(1975)
5	新松戸駅/駅前流鉄踏切	昭和52年(1977)
6	新松戸駅/常磐線ホーム	昭和50年頃(1975)
7	新松戸駅/武蔵野線ホーム	昭和53年(1978)10月2日
8	新松戸駅	昭和53年(1978)10月頃
9	新松戸中央土地区画整理/新松戸3丁目	昭和53年(1978)
10	新松戸駅/駅前広場	昭和57年(1982)11月25日
11	北小金駅	昭和29年(1954)10月
12	北小金駅前商店街	昭和29年(1954)10月
13	北小金駅/ホーム	昭和37年(1962)3月1日
14	北小金駅	昭和54年(1979)
15	北小金駅/南口	昭和57年(1982)
16	北小金駅/南口駅前広場	昭和57年(1982)
17	北小金駅/南口駅前商店街	平成元年(1989)

②「駅前の風景」流鉄・東武編

	名 称	撮影時期
1	馬橋駅(流鉄)改札口	昭和48年(1973)
2	馬橋駅(流鉄)ホーム	昭和48年(1973)
3	馬橋駅(流鉄)ホーム	昭和43年(1968)
4	馬橋駅(流鉄)ホーム	昭和43年(1968)
5	馬橋駅西口	昭和52年(1977)
6	幸谷駅	昭和59年(1984)
7	幸谷駅	昭和59年(1984)
8	小金城址駅	昭和42年(1967)
9	小金城址駅	昭和42年(1967)
10	小金城址駅	昭和42年(1967)
11	小金城址駅付近	昭和58年(1983)
12	小金城址駅/1200形と新坂川	昭和58年(1983)
13	六実駅	昭和45年(1970)
14	六実駅	昭和36年(1961)
15	六実駅ホーム	昭和36年(1961)
16	六実駅ホーム	昭和36年(1961)
17	六実駅改札	昭和58年(1983)

③「街角編」①

	名 称	撮影時期
1	松戸駅東口/「扇屋」前	昭和44年(1969)10月
2	北小金/旧水戸街道小金小学校付近	昭和44年(1969)10月
3	西馬橋/町会の清掃作業	昭和44年(1969)12月
4	上本郷/市立病院前	昭和45年(1970)4月
5	高塚新田/高塚団地	昭和45年(1970)9月
6	松戸駅西口/松戸駅入口交差点	昭和45年(1970)11月
7	松戸駅西口駅前商店街/松戸駅を望む	昭和45年(1970)
8	松戸駅西口/ふれあい通り	昭和45年(1970)
9	松戸駅東口/市民会館前青空市場	昭和46年(1971)10月8日
10	小金原団地	昭和43年(1968)
11	松戸駅東口/国体500日前パレード	昭和47年(1972)6月3日
12	松戸駅西口商店街/旧水戸街道方面を望む	昭和42年(1967)7月頃
13	稔台/みのり台駅前踏切	昭和47年(1972)
14	六実/駅前歩行者天国	昭和47年(1972)8月
15	松戸駅東口/第2回こども祭り	昭和50年(1975)5月
16	常盤平/ときわ平桜まつり	昭和47年(1972)4月
17	西馬橋/台風水害	昭和56年(1981)10月

④「街角編」②

	名 称	撮影時期
1	国分川/公害課の水質検査	昭和50年(1975)
2	千駄堀/21世紀の森と広場建設予定地	昭和56年(1981)
3	松戸駅西口駅前/放置自転車の撤去	昭和59年(1984)
4	旧水戸街道/春雨橋付近	昭和47年(1972)
5	元山/五香南町会自作山車	昭和51年(1976)
6	西馬橋4丁目/市民防犯パレード	昭和52年(1977)
7	古ヶ崎3丁目/ゴミの分別収集	昭和53年(1978)
8	新松戸3丁目付近	昭和53年(1978)
9	みのり台駅前商店街/みのり台ふるさと祭り	昭和55年(1980)
10	小金原8丁目発掘調査/若芝遺跡	昭和56年(1981)
11	五香駅前商店街	昭和56年(1981)
12	常盤平5丁目/さくら通り	昭和56年(1981)
13	旧水戸街道/松龍寺門前	昭和57年(1982)
14	常盤平さくら通り	昭和57年(1982)
15	旭町/田植え	昭和59年(1984)
16	旧水戸街道下横町/旧渡し場道	昭和52年(1977)
17	北松戸/松戸競輪場前踏切	昭和48年(1973)

(6) 第2回松戸市展選抜展

- ◆展示意図 松戸美術会との協力により、松戸市美術展覧会(市展)の運営に関わり指導的立場にいる会員の作品を選んで選抜展として開催した。
- ◆主催 松戸美術会・松戸市教育委員会生涯学習推進課・松戸市立博物館
- ◆会期 前期:平成28年4月26日～5月15日
後期:平成28年5月17日～6月5日
- ◆会場 松戸市立博物館企画展示室
- ◆観覧者数 館蔵資料展「幸田貝塚の世界」と同時開催のため、計上していない。
- ◆観覧料 無料
- ◆出品作家数 26人(日本画10、洋画13、彫刻3)

(7) 松戸市小中学生優秀作品展

- ◆展示意図 企画展示学習資料展の機会を利用して市内小中学生の絵画やポスター等の優秀作品を展示することにより、優れた作品を鑑賞し、よさを味わう機会とした。
- ◆会期 ①こども県展優秀作品展 平成29年1月14日(土)～1月26日(木)(11日間)
②松戸市小中学生観光絵画優秀作品展 平成29年1月28日(土)～2月9日(木)(11日間)
③明るい社会づくりポスター優秀作品展 平成29年2月11日(土)～2月23日(木)(11日間)
- ◆会場 松戸市立博物館企画展示室前ロビー
- ◆観覧者数 学習資料展「昔のくらし探検」と同時開催のため、計上していない。
- ◆観覧料 無料

3 学習支援

(1) 講演会

(各回定員:80人)

■館長講演会(会場:講堂)

演 題 「日本における博物館のはじまり」
対 象 者 一般
開催月日 平成28年10月9日(日)
内 容 日本の博物館誕生の前史に関して、映像資料を多用して講演した。
講 師 望月 幹夫(当館館長)
参加人数 24人(全て事前応募)

■歴史を語る(会場:講堂)

第1回 演 題 「真田『幸村』から信繁へ」
対 象 者 一般
開催月日 平成28年5月29日(日)
内 容 かつて真田幸村と呼ばれていた真田信繁の実像や、戦国時代の過酷な状況について最新の文献史学の成果から講義が行われた。またTVドラマの時代考証担当者としての裏話などが明かされた。
講 師 丸島 和洋氏(国文学研究資料館 特定研究員)
参加人数 68人(事前応募60人、当日申込8人)

第2回 演 題 「斧を持つひと」
対 象 者 一般
開催月日 平成28年11月3日(木・祝)
内 容 信仰や権力の象徴ともなる斧、またデポ遺構から発見されることもある斧の歴史的な意味についての講演。
講 師 田中 英司氏(東洋大学講師)
参加人数 54人(全て事前応募)

第3回 演 題 「地域博物館の可能性一人が集い、未来をつくる広場」
対 象 者 一般
開催月日 平成29年3月20日(月・祝)
内 容 地域文化への博物館活動の重要性を、江戸東京たてもの園の夜間開館企画「下町夕涼み」や、東京都美術館の「とびらプロジェクト」などのユニークな実践活動を通して考えた。
講 師 佐々木 秀彦氏(【公財】東京都歴史文化財団)
参加人数 51人(事前応募4人、当日申込47人)

■江戸落語を聞く会(会場:企画展示室)

演 題 「紋三郎稲荷」「ねずみ」ほか
対 象 者 一般
開催月日 平成28年12月3日(土)
内 容 江戸落語を聞いて、江戸の庶民文化、日本の伝統的話芸について学んだ。
講 師 雷門 小助六氏、春風亭 べん橋氏
参加人数 85人(事前応募80人、当日申込5人)

■特別講演会(会場:講堂)

演 題 「西原文書から戦国時代を語る」
 対 象 者 一般
 開催月日 平成29年 3月 5日(日)
 内 容 平成28年度に購入した「西原文書」に関連する特別講演会で、今川氏研究の第一人者である久保田昌希駒澤大学教授によるもの。戦国時代の状況の説明から、西原文書全点の内容紹介まで、簡潔かつ平易に語り尽くした。
 講 師 久保田 昌希氏(駒澤大学教授・副学長)
 参加人数 74人(全て事前応募)

■「学芸員講演会」(博物館友の会共催)(会場:講堂)

各学芸員が専門分野について講演した。

開催月日	タイトル	講師	参加者(うち友の会会員)
平成28年 6月12日(日)	西原文書の世界	中山 文人	52人(35人) ※当日先着順
7月31日(日)	セルロイド人形と日本のプラスチック産業	山田 尚彦	20人(14人) ※当日先着順
9月25日(日)	石斧と人-企画展の見どころ	大森 隆志	37人(20人) ※当日先着順
12月 4日(日)	「松戸町報」から見た大正時代の松戸	柏木 一朗	47人(22人) ※当日先着順
平成29年 1月22日(日)	子どもと博物館-「昔のくらし探検」を展示して13年	青木 俊也	18人(12人) ※当日先着順
2月26日(日)	古墳の終焉と火葬墓の展開	小林 孝秀	52人(25人) ※当日先着順
3月12日(日)	お江戸の事件と錦絵 I	富澤 達三	63人(31人) ※当日先着順

(2) 講座

(各回定員:30人)

■古文書を読む(近世入門編)(会場:実習室)

対 象 者 一般
 開催月日 平成29年 1月 7日(土)～3月 4日(土)の隔週土曜日(全5回)
 内 容 古文書解読の初心者を対象に、松戸地域に関わる古文書をテキストに使用して、文字の読み方や時代背景の講義を行い、古文書に親しみながら松戸の近世史を理解してもらうことを目標とした。
 講 師 富澤 達三(当館学芸員)
 応募人数 45人(※定員30人のため抽選)
 参加人数 延べ133人(①29人②26人③26人④26人⑤26人)

■古文書を読む(近世中級編 I)(会場:実習室)

対 象 者 一般
 開催月日 平成28年 9月10日(土)～11月12日(土)の隔週土曜日(全5回)
 ※第5回は当初11月5日予定のところ、11月12日の開催となった。
 内 容 経験者を対象に古文書を読解し、歴史や文化を学んだ。
 講 師 鈴木 雅晴氏(駒澤大学非常勤講師)

応募人数 40人(※定員30人のため抽選)
参加人数 延べ123人(①27人②28人③26人④23人⑤19人)

■古文書を読む(近世中級編Ⅱ)(会場:実習室)

対象者 一般
開催月日 平成29年1月22日(日)～3月12日(日)の隔週日曜日(全5回)
※第1回は当初1月15日予定のところ、1月22日の開催となった。
内容 経験者を対象に古文書を読解し、歴史や文化を学んだ。
講師 出口 宏幸氏(江東区文化財主任調査員)
応募人数 39人(※当初定員30人のため抽選、当選33人)
参加人数 延べ159人(①31人②33人③31人④32人⑤32人)

■戦国末期の史料を読む—西原文書の世界—(会場:女性センター「ゆうまつど」3階研修室)

対象者 一般
開催月日 平成28年9月9日(金)～11月18日(金)の隔週金曜日(全6回)
内容 平成28年度に購入した「西原文書」10点中の4点、関連する古文書2点の計6点の写真版を解読し、解説を加えた。第2次国府台合戦関連の考察、および駿河今川家の滅亡と松戸市域の意外な関連等を学んだ。
講師 中山 文人(当館学芸員)
応募人数 27人
参加人数 延べ138人(①25人②24人③22人④23人⑤22人⑥22人)

■博物館の民俗学Ⅲ(会場:実習室・会議室)

対象者 一般
開催月日 平成28年8月20日(土)・9月3日(土)・9月24日(土)
(全3回)
※9月24日のみ同じ講座を2回実施している
内容 松戸市立博物館における民俗調査資料のなかで東葛印旛大師講に関する映像資料などを題材に、地方霊場としての位置付けや現在の姿を紹介した。
講師 青木 俊也(当館学芸員)
応募人数 27人
参加人数 延べ65人(①21人②23人③21人)

■松戸の歴史をさぐる 近現代編(会場:実習室)

対象者 一般
開催月日 平成28年11月19日(土)・12月3日(土)・12月17日(土)
(全3回)
内容 『松戸市史』下巻刊行後(昭和43年以降)に発表された松戸市の近現代に関する研究や史料を紹介し解説をおこなった。
講師 柏木 一郎(当館学芸員)
応募人数 35人
参加人数 延べ87人(①32人②30人③25人)

■松戸市パートナー講座(講座名:松戸の歴史を学ぼう)

実施年月日	講座内容	主催者	派遣講師	参加人数
平成28年 6月4日(土)	徳川慶喜と松戸徳川家について	いきいきサロン	柏木 一朗	30人
7月15日(金)	マツドの中世	マロン会	中山 文人	18人
7月17日(日)	松戸徳川家と戸定邸	新松戸サンライトパストラル 6番街自治会	柏木 一朗	13人
7月22日(金)	マツドの中世～小金・本土寺とその周辺から～	ばそこん119元気応援くらぶ	中山 文人	10人
平成29年 2月4日(土)	写真にみる昭和の松戸	岩瀬ときめきクラブ	柏木 一朗	37人

■その他講師派遣等

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	場所	参加人数
平成28年 6月8日(水)	定年後のいきいき人生 支援講座～これからの 人生設計のために	まつど塾 (松戸市教育委員会 生涯学習推進課支援)	小林 孝秀	松戸市立博物館 常設展示室・ 企画展示室	30人
6月11日(土)	発掘された原始・古代 の松戸	専修大学松戸中学校 (社会科講演会)	小林 孝秀 鶴沼 豊 (学習支援 専門員)	専修大学松戸中学校	163人
7月20日(水)	海から見た房総 -古墳時代-	シニアサークル シルバー大学院	小林 孝秀	鎌ヶ谷市東部学習 センター	153人
7月27日(水)	親子文化財史跡めぐり	松戸市教育委員会 社会教育課・生涯学習 推進課青少年会館	青木 俊也	松戸市立博物館 常設展示室・ 企画展示室	21人
8月2日(火)	旧松戸宿地域の巡見	千葉県教育研究会 松戸支会	富澤 達三 綿貫 貴 (学習支援 専門員)	旧松戸宿周辺 (平潟・根本方面)	12人
11月6日(日)	お江戸の重大事件と錦絵 -ゆるキャラが走る	葛飾区郷土と天文の 博物館	富澤 達三	葛飾区郷土と天文の 博物館・講堂	73人
平成29年 1月28日(土)	金鈴塚古墳の石室構 造と石棺・木棺	木更津市郷土博物館 金のすず	小林 孝秀	木更津市郷土博物館 金のすず・集会室	10人

■出前授業

対象者 市内小学校及び同中学校
 開催月日 平成28年度後半期に当該校が希望する日時
 内容 当該校からの要請に応え、博物館学芸員が自らの専門分野について、通常の授業の中でゲストティーチャーとして指導・支援を行った。
 講師 当館学芸員(当館学習支援専門員も同行)

①松戸市立東松戸小学校

対象者 第3学年 在籍96人 3学級
 開催日時 平成29年2月16日(木) 9時35分～12時15分
 内容 「三匹獅子舞ってなんだろう～古くからつたわるげいのう」について、3学級それぞれ1時間ずつ同一の内容で授業を行った(授業計画では2時間扱いのうちの1時間目のみを出前授業とした)。「1時間」の授業は45分授業となっている。

講師 山田 尚彦<当館学芸員>、綿貫 貴<学習支援専門員>

②松戸市立常盤平第二小学校

対象者 第3学年 在籍89人 3学級

開催日時 平成29年2月24日(金) 9時35分～12時15分

内容 上記①に同じ

講師 山田 尚彦<当館学芸員>、綿貫 貴<学習支援専門員>

指導案・「本時の展開」(HT:学級担任 GT1・2:ゲストティーチャー1・2)

過程・時間	学習活動	教師の支援(○)・評価(☆)	備考(資料等)
つかむ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・HT:授業開始の挨拶 ・HT:今日の学習テーマの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">「三匹獅子舞」ってなんだろう～古くからつたわるげいのう～</div> <ul style="list-style-type: none"> ・HT:前に並んでいるGTの紹介。 ・GT2:挨拶と自分たちの紹介及び来館のお礼・学芸員の紹介など ・GT1:自己紹介と今日の活動説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・HT:テーマを黒板に貼付 ・○『のびゆく松戸市』P68を <p>見て感じたことを発表させる。</p> <p>○HT:必要があればメモを取ることをアドバイスする。「書く・聴く」の区別を大切にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『のびゆく松戸市』・ワークシート・ノートの用意。
調べる 35分	<p>(以下ずっとGT1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「獅子頭」の紹介 ・ビデオ視聴1回目 ～三匹獅子舞のようすを見てみよう「何を見つけられるかな」 ・ビデオ視聴2回目 ～「もう一度ビデオをよく見て、思い出してみましよう。」(映像を止めながら質問形式で進める)。 ・ここで質問を受け付ける。:例 いつ始まったの?毎年いつどこでやっているの?お話の内容は?・何のためにやっているの?など～すぐにGT1が答えずに、「この問いに答えられる人は?」と児童の中から返すこともある。児童の中から望ましい考え方が出るようにしたい。 ・ここまで見て感じたこと、考えたことを発表しよう(挙手で)。 ・「地域に古くから残るげいのう」を「きょう土げいのう」といいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「獅子頭」を持って机の間を回る。 ○GT2とHTは机間指導(ついてこれない児童への支援) ・みつけたらしるしをつけるとともに、自分なりに答えをメモさせる。 ・2度目の視聴は、まわりと相談しながら答えを出し、プリントに書き込ませる。答え合わせは・・・? ・GT1:「なぜ」「なんで」の問いかけを尊重。できるだけ具体的な質問を出させる。 ○HTは、「感じた」と「考えた」の違いを意識して児童の反応を観察する(評価のため)。 ☆評価:社会的事象に対する知識・理解～少なくとも、むらの発展や人々のまとまりなどへの願いが込められていることを理解できる(理解しようと努めている)。 ○HTが黒板に「きょう土げいのう」と書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GT2及びHTは机間指導・ついてこれない児童への支援 ・HTは児童の気持ちになって時に手を挙げてGT1に質問する。ただし、いつから始まった芸能か、ストーリーは?などは謎であることをふまえる(学芸員の願い:それを誰か児童に将来研究してほしい)。 ・大切なことは、代々この芸能を受け継ぐこと?
まとめる 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・「獅子舞を踊るときに、何が一番大へん?」「『一年が終わった』と感じるのはなぜ?」を順に質問する。 ・「きょう土げいのう」の確認を。 ・「猿の面」を紹介(プレゼント) ・GT1のまとめとHTへバトンタッチ。 ・HT:GT1へのお礼の言葉と授業終了の挨拶(次の時間の指示) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆評価:ここも大切な評価場面 ・二つの質問の答えが出づらい場合は、次の担任の授業につなぐようにGT2が促す。GT1はここまでを総括して終了。 ・児童の代表からお礼の言葉を ・「サル」の面」の配付は次時で。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の三匹獅子舞のコーナーをGT2が宣伝する。(ぜひとも家の方などと一緒に)。 ・自由研究の誘いも。

※出前授業に準じるものとして、授業づくりの共同研究や授業実践支援等も行った。

該当する学校は次のとおり。

・松戸市立東松戸小学校(共同研究・授業実践支援)

(3) 体験学習

■こども体験教室「親も楽しむ 米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」

(博物館友の会共催)(会場:21世紀の森と広場の水田・実習室等)

対象者 小学4～6年生と保護者の方

開催月日 ①平成28年5月7日(土)田起こし・代かき

②5月14日(土)田植え

③7月9日(日)田の草取り・勉強会

④8月6日(土)案山子づくり

⑤9月17日(土)稲刈り

⑥10月1日(土)脱穀

⑦11月26日(土)竈でご飯を炊く・展示をつくる(1)

⑧12月10日(土)展示をつくる(2)

⑨平成29年1月7日(土)展示をつくる(3)

⑩1月28日(土)小学生学芸員展示解説会

内容 21世紀の森と広場内の水田で、田起こし・代かきから田植え、田の草取り、案山子づくり、刈り取り、脱穀までの一連の米づくりにおける作業を体験し、竈でご飯を炊き試食した。さらにその作業を表したパネルをつくり、学習資料展「昔のくらし探検」のなかで小学生学芸員コーナーとして展示した。なお、この体験教室には博物館友の会有志の協力を得た。

講師 青木 俊也・中山 文人(当館学芸員)・博物館友の会有志

応募人数 22人(小学生11人、保護者11人)(※当初定員10組20人)

参加人数 延べ159人(小学生88人、保護者71人)

(①22人②22人③4人④22人⑤18人⑥18人⑦18人⑧9人⑨8人⑩18人)

■こども体験教室「親も楽しむ 勾玉づくり」(会場:実習室)

第1回 対象者 小学生と保護者の方

開催月日 平成28年5月3日(火・祝)10時～11時

講師 大森 隆志・小林 孝秀(当館学芸員)

応募人数 16組35人(※キャンセル含む、定員15組30人)

参加人数 28人(小学生14人、保護者14人)

第2回 対象者 小学生と保護者の方

開催月日 平成28年5月3日(火・祝)13時30分～14時30分

講師 大森 隆志・小林 孝秀(当館学芸員)

応募人数 14組23人(※定員15組30人)

参加人数 23人(小学生14人、保護者9人)

第3回 対象者 小学生と保護者の方

開催月日 平成28年8月6日(土)10時～11時

講師 小林 孝秀(当館学芸員)

応募人数 20組34人(※定員15組30人のため抽選)

参加人数 24人(小学生13人、保護者11人)

第4回 対象者 小学生と保護者の方

開催月日 平成28年8月6日(土)13時30分～14時30分

講師 小林 孝秀(当館学芸員)

応募人数 20組32人(※定員15組30人のため抽選)

参加人数 31人(小学生14人、保護者14人、小学生未満3人)
 第5回 対象者 小学生と保護者の方
 開催月日 平成28年8月6日(土)15時00分～16時00分
 講師 小林 孝秀(当館学芸員)
 応募人数 6組12人(※定員15組30人)
 参加人数 12人(小学生6人、保護者4人、小学生未満2人)
 内容 縄文時代の装身具作りを通して、当時の生活技術の一端を知ってもらった

※8月6日(土)は応募多数のため、第3回・第4回の落選者を対象に希望者を募り、第5回を実施した

■こども体験教室「親も楽しむ 土鈴づくり」(会場:実習室)

第1回 対象者 小学生と保護者の方
 開催月日 平成28年7月30日(土)10時～11時
 講師 小林 孝秀(当館学芸員)
 応募人数 13組23人(※定員15組30人)
 参加人数 24人(小学生11人、保護者11人、小学生未満2人)
 第2回 対象者 小学生と保護者の方
 開催月日 平成28年7月30日(土)13時30分～14時30分
 講師 小林 孝秀(当館学芸員)
 応募人数 13組21人(※定員15組30人)
 参加人数 17人(小学生10人、保護者6人、小学生未満1人)
 内容 縄文時代の土鈴作りを通して、当時の生活技術の一端を知ってもらった。

■こども体験教室「親も楽しむ からくりおもちゃ〈初級編〉パタパタをつくろう」
 (博物館友の会共催)(会場:実習室)

第1回 対象者 小学3～6年生と保護者の方
 開催月日 平成28年8月21日(日)10時～12時
 講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
 応募人数 7組14人(※定員10組20人)
 参加人数 14人(小学生7人、保護者7人)
 第2回 対象者 小学3～6年生と保護者の方
 開催月日 平成28年8月21日(日)13時30分～15時30分
 講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
 応募人数 7組13人(※定員10組20人)
 参加人数 13人(小学生7人、保護者6人)
 内容 江戸時代からある郷土玩具「パタパタ」を作って遊ぶ。作品は持ち帰ることができる。

■こども体験教室「親も楽しむ からくりおもちゃ〈応用編〉からくり屏風をつくろう」
 (博物館友の会共催)(会場:実習室)

第1回 対象者 小学3～6年生と保護者の方
 開催月日 平成28年8月28日(日)10時～12時
 講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
 応募人数 10組20人(※定員10組20人)
 参加人数 20人(小学生10人、保護者10人)
 第2回 対象者 小学3～6年生と保護者の方
 開催月日 平成28年8月28日(日)13時30分～15時30分
 講師 山田 尚彦(当館学芸員)・博物館友の会有志
 応募人数 10組19人(※定員10組20人)
 参加人数 17人(小学生9人、保護者8人)
 内容 郷土玩具パタパタの応用編として、からくり屏風を作って遊ぶ。
 作品は持ち帰ることができる。

■体験教室「はたおり体験」(博物館友の会共催)(企画展示室ロビー)

対象者 子どもから一般
開催月日 平成28年①7月23日(土)②8月6日(土)③8月20日(土)④9月3日(土)
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
募集方法 「はたおり体験」開催中に随時受付
参加人数 延べ71人(①19人②21人③13人④18人)
内容 擦り切れたりして使えなくなった布を裂いて新しい布に再生する裂き織りを5分から10分程度、簡単に体験した。

■体験教室「裂き織りをしてみませんか」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

対象者 一般
開催月日 平成29年①2月8日(水)・②9日(木)・③10日(金)
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
応募人数 34人(※定員30人(各日10人)のため抽選)
参加人数 延べ30人(①10人②10人③10人)
内容 擦り切れたりして使えなくなった布を裂いて新しい布に再生する先人の知恵を体験した。

■体験教室「自分でつくる糸と布」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

対象者 一般
開催月日 ①平成29年2月15日(水)糸紡ぎ
②2月17日(金)機織り
講師 青木 俊也(当館学芸員)・はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
応募人数 30人(※定員8人のため抽選)
参加人数 延べ16人(①8人②8人)
内容 綿から糸車を使って糸を紡ぎ、高機で織った。

■昔のくらし体験教室「風呂敷を使ってみよう」(博物館友の会共催)(会場:企画展示室)

第1回～第6回

対象者 学習資料展「昔のくらし探検」観覧者
開催月日 ①平成29年1月14日(土)②28日(土)③2月11日(土・祝)④25日(土)⑤3月11日(土)
⑥25日(土)
講師 博物館友の会有志
参加人数 延べ160人(子ども92人、一般68人)
(①9人②26人③31人④38人⑤26人⑥30人)
(※当日先着順)
内容 四角い物、丸い物、瓶を風呂敷で包んで、昔のくらしの一端を体験した。

■昔のくらし体験教室「天秤棒で桶を担いでみよう」(博物館友の会共催)(会場:企画展示室)

第1回～第5回

対象者 学習資料展「昔のくらし探検」観覧者
開催月日 ①平成29年1月21日(土)②2月4日(土)③18日(土)④3月4日(土)⑤18日(土)
講師 博物館友の会有志
参加人数 延べ185人(子ども133人、一般52人)
(①30人②52人③31人④35人⑤37人)
(※当日先着順)
内容 天秤棒で桶を担いで、昔のくらしの一端を体験した。

■昔のくらし体験教室「紙芝居と昔の遊びを楽しむ日」

(博物館友の会共催)(会場:縄文の森広場、森の工芸館、企画展示室、実習室)

- 対象者 子どもから一般
開催月日 ①平成29年3月19日(日)11時～15時30分
②3月26日(日)11時～15時30分
講師 紙芝居 峯岸 照恭氏(大江戸ヤッサン一座代表)
昔の遊び 博物館友の会有志
参加人数 延べ349人(子ども149人、一般200人)
①266人【紙芝居196人(子ども75人、一般121人)、
昔の遊び70人(子ども51人、一般19人)】
②83人【紙芝居61人(子ども9人、一般52人)、
昔の遊び22人(子ども14人、一般8人)】
(※当日先着順)
内容 紙芝居とメンコ、コマなどの遊びを行って、「昔のくらし」における子どもの世界を楽しんだ。

■博物館を描こう

- 第1回 対象者 小学4～6年生
開催月日 平成28年7月24日(日)13時30分～16時30分
講師 菊池 良樹(市立東部小学校教諭)、鷗沼 豊(当館学習支援専門員)
応募人数 3人
参加人数 3人
第2回 対象者 小学4～6年生
開催月日 平成28年8月20日(土)13時30分～16時30分
講師 鷗沼 豊(当館学習支援専門員)
応募人数 3人
参加人数 3人
内容 博物館内外の風景、展示物の絵を描くことによって、博物館に対する興味関心、理解を深める。

■中学生、高校生縄文土器に挑戦・作品展 by drawing

①中学生の部

- 対象者 松戸市内中学校美術部員
開催月日 平成28年7月27日(水)
内容 縄文土器をモチーフに絵を描くことを通じて、松戸市域の縄文時代の生活に理解を深めるとともに、縄文土器の造形的な美しさを表現することで、時代を超えた美的価値を味わう機会とした。作品は企画展示室ロビーに展示した。
講師 市内中学校美術科教員(3人)
鷗沼 豊(当館学習支援専門員)
参加人数 15人
作品展開催月日 平成28年8月9日(火)～8月21日(日)



②高校生の部

- 対象者 松戸市立松戸高校美術部員
開催月日 平成28年7月28日(木)
内容 上記①に同じ。

講 師 大山 一樹(市立松戸高校教諭)、鶴沼 豊(当館学習支援専門員)
 参加人数 11人
 作品展開催月日 平成28年8月30日(火)～9月11日(日)

■第1回松戸市立博物館アワード作品展

趣 旨 博学連携の一環として、博物館の機能並びに環境を生かしたコンクールを開催することにより、児童生徒の博物館に対する理解を深めるとともに、博物館の積極的な活用を推進する機会とする。

主 催 松戸市立博物館

募集概要 (1) 募集内容並びに募集対象者

①歴史に関するイラストの部

- ・小学生中学年部門
- ・小学生高学年部門
- ・中学生部門
- ・高校生部門

②社会科歴史に関する自由研究の部

- ・小学生中学年部門
- ・小学生高学年部門
- ・中学生部門
- ・高校生部門

(2) 募集期間

- ・平成28年7月～9月16日(金)

(3) 審査員

- ・千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会代表
- ・千葉県教育研究会松戸支会造形部会代表
- ・松戸市立博物館代表

(4) 表彰

- ①「歴史に関するイラストの部」及び「社会科歴史に関する自由研究の部」の部門ごとに4点を選び、「特別賞(館長賞)」として賞状と副賞を授与する。またその中から1点を選び、「教育長賞」として賞状と副賞を授与する。
- ②各部の部門ごとに3名・12点に「優秀賞」として賞状を授与する。
- ③各部の部門の若干名に「佳作」として賞状を授与する。
- ④入賞者1人あたり常設展示招待券を6枚配布する。

展示会場 松戸市立博物館企画展示室

作品展開催月日 平成28年12月6日(火)～12月18日(日)

応募校数 29校

応募点数

	イラストの部	自由研究の部
小学生中学年	27	26
小学生高学年	55	48
中学生	55	82
高校生	13	0
合計	150	156



第1回松戸市立博物館アワード審査結果

<イラスト部門>

	賞	部	氏名	学校名	タイトル
1	教育長賞	中学生	斉藤 アリーナ クリスティン	流山市立南流山中学校	大正少女 時を流れる
2	博物館長賞	小学校中学年	野口 櫻子	松戸市立常盤平第三小学校	昭和はじめの女物着物
3	博物館長賞	小学校高学年	眞鍋 愛美	柏市立柏第五小学校	松陰先生が見た世界
4	博物館長賞	高校生	澤田 未来	松戸市立松戸高等学校	注口土器
5	優秀賞	小学校中学年	柴田 響	柏市立柏第五小学校	本多平八郎忠勝
6	優秀賞	小学校中学年	江籠平 航	松戸市立稔台小学校	運命の戦い織田対雑賀
7	優秀賞	小学校中学年	松川 力也	松戸市立中部小学校	松本城
8	優秀賞	小学校高学年	持塚 侑哉	松戸市立中部小学校	五稜郭
9	優秀賞	小学校高学年	仲村 梨花	柏市立風早北部小学校	徳川家康
10	優秀賞	小学校高学年	廣瀬 理沙	松戸市立稔台小学校	縄文時代と弥生時代の オリジナルファッション
11	優秀賞	中学生	角井 美保	松戸市立第五中学校	桜姫
12	優秀賞	中学生	関根 くるみ	松戸市立第五中学校	不老の華
13	優秀賞	中学生	吉田 優奏	流山市立南流山中学校	たいむましーん
14	優秀賞	高校生	南雲 桜	松戸市立松戸高等学校	注口土器
15	優秀賞	高校生	野田 優奈	松戸市立松戸高等学校	大正時代
16	優秀賞	高校生	伊藤 佳菜	千葉県立柏中央高等学校	柴崎神社
17	佳作	小学校中学年	金子 凜己	松戸市立六実小学校	縄文時代の竪穴住居
18	佳作	小学校中学年	根本 理公	柏市立柏第五小学校	六文銭に秘めた思い
19	佳作	小学校高学年	工藤 歩	松戸市立寒風台小学校	龍馬の4コママンガ
20	佳作	小学校高学年	根本 隼	柏市立柏第五小学校	出島
21	佳作	小学校高学年	北上 裕太	柏市立風早北部小学校	野口英世
22	佳作	中学生	外山 綾乃	松戸市立第一中学校	縄文土器
23	佳作	中学生	山浦 紗也花	松戸市立第五中学校	諸行無常
24	佳作	中学生	布施 せりな	柏市立西原中学校	空母「信濃」
25	佳作	中学生	成松 萌々香	流山市立南流山中学校	時代の変化
26	佳作	高校生	塩崎 真奈美	松戸市立松戸高等学校	縄文土器



教育長賞
「大正少女 時を流れる」
斉藤 アリーナクリスティン
(流山市立南流山中学校)



博物館長賞
「昭和はじめの女物着物」
野口 櫻子
(松戸市立常盤平第三小学校)



博物館長賞
「松陰先生が見た世界」
眞鍋 愛美
(柏市立柏第五小学校)



博物館長賞
「注口土器」
澤田 未来
(松戸市立松戸高等学校)

<自由研究部門>

	賞	部	氏名	学校名	タイトル
1	教育長賞	小学生中学年	那須 俊介	松戸市立高木第二小学校	小金牧と野馬除土手について
2	博物館長賞	小学生高学年	斉藤 優樹	松戸市立六実小学校	小金牧の野馬土手
3	博物館長賞	中学生	堀越 菜々	専修大学松戸中学校	庚申塔について
4	優秀賞	小学生中学年	恩田 大輝	松戸市立八ヶ崎第二小学校	戦国かぶと
5	優秀賞	小学生中学年	羽生田 梓実	松戸市立高木第二小学校	松戸の歴史的な場所
6	優秀賞	小学生中学年	高橋 琥太郎	松戸市立六実小学校	松戸の縄文人の暮らし
7	優秀賞	小学生高学年	須藤 日菜	松戸市立八ヶ崎小学校	千葉の古墳時代へGO!
8	優秀賞	小学生高学年	後藤 瑠花	松戸市立稔台小学校	信長と千葉の歴史
9	優秀賞	小学生高学年	那須 愛美	松戸市立高木第二小学校	国府台合戦と松戸の史跡について
10	優秀賞	中学生	中村 律己	松戸市立和名ヶ谷中学校	河原塚古墳調査～古墳時代への旅
11	優秀賞	中学生	豊永 もあな	松戸市立古ヶ崎中学校	徳川家と松戸
12	優秀賞	中学生	石毛 有沙	専修大学松戸中学校	飛ノ台遺跡
13	佳作	小学生中学年	北川 樹里	松戸市立高木第二小学校	「親子で戸定邸をたんけん」に行ってきました!
14	佳作	小学生中学年	具志堅 有咲	松戸市立高木第二小学校	六実地域の歴史
15	佳作	小学生中学年	木内 幸実	松戸市立高木第二小学校	松戸市のアイディアマン 松本清
16	佳作	小学生中学年	小原 幸介	松戸市立八ヶ崎小学校	お金の歴史について
17	佳作	小学生中学年	池田 空和	松戸市立六実小学校	戦国武将都道府県別大事典
18	佳作	小学生中学年	佐田 詩穂	松戸市立稔台小学校	江戸幕府の將軍達
19	佳作	小学生中学年	田村 睦希	松戸市立東松戸小学校	すわ(諏訪)神社レポート
20	佳作	小学生中学年	菊池 愛衣	松戸市立東松戸小学校	長野県駒ヶ根市の伝統や歴史
21	佳作	小学生中学年	竹下 里奈	松戸市立常盤平第三小学校	『八柱』の由来
22	佳作	小学生高学年	緑川 航生	松戸市立稔台小学校	織田信長の年表
23	佳作	小学生高学年	江川 美羽	松戸市立稔台小学校	歴史かるた
24	佳作	小学生高学年	大崎 乃愛	松戸市立稔台小学校	「徳川家康の墓どこに」 など3編
25	佳作	小学生高学年	高橋 珀	松戸市立稔台小学校	歴史カルタ
26	佳作	小学生高学年	伊藤 翔麻	松戸市立高木第二小学校	徳川新聞
27	佳作	小学生高学年	寺方 健悟	松戸市立高木第二小学校	昭和の暮らし
28	佳作	小学生高学年	林 凜咲	松戸市立八ヶ崎第二小学校	「土鈴」及び「縄文時代につくられた土鈴の作り方説明書」
29	佳作	小学生高学年	小林 晴太	松戸市立八ヶ崎第二小学校	鮮魚街道
30	佳作	小学生高学年	北嶋 月渚	松戸市立上本郷小学校	坂本龍馬「暗殺の秘密」
31	佳作	小学生高学年	押尾 明由	松戸市立常盤平第三小学校	佐倉順天堂記念館とその ころの医者について
32	佳作	小学生高学年	平田 愛翔	松戸市立常盤平第三小学校	50周年の常盤平第三小学校の3つのナゾ

	賞	部	氏名	学校名	タイトル
33	佳作	中学生	初根 遼介	専修大学松戸中学校	習志野市の歴史 - 遺跡や史跡 -
34	佳作	中学生	神田 夏奈	専修大学松戸中学校	地元の史跡 子和清水
35	佳作	中学生	星名 優歩	専修大学松戸中学校	松戸市内にあった「城」について
36	佳作	中学生	川上 千尋	専修大学松戸中学校	二十世紀梨の歴史 - 松戸覚之助の奇跡 -
37	佳作	中学生	佐藤 琴心	専修大学松戸中学校	我孫子市の歴史
38	佳作	中学生	佐藤 幸祐	松戸市立六実中学校	「坂本龍馬の生涯にせまる!!」 ～幕末を駆けぬけた維新のヒーロー!～
39	佳作	中学生	立石 桜介	松戸市立金ヶ作中学校	近代和風建築研究



教育長賞
「小金牧と野馬除土手について」
那須 俊介
(松戸市立高木第二小学校)



博物館長賞
「小金牧の野馬土手」
斉藤 優樹
(松戸市立六実小学校)



博物館長賞
「庚申塔について」
堀越 菜々
(専修大学松戸中学校)

(4) ミュージアムシアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター

公共上映の権利を有する映像ソフトを月替わりで毎日、講堂において定時上映した。ただし講演会等の開催時には、上映を中止した。

上映時間 午前11時・午後1時15分・3時15分

※午前11時上映分は『午前11時の名画座』として、過去に上映した映像ソフトの中から好評だったものを上映した。(平成28年度から毎日上映)

※土日祝日の午後1時15分上映分は『キッズシアター』として、子ども向けプログラムの上映を開始した。

※6月21日～6月26日は燻蒸に伴う休館のため、上映していない。

ミュージアムシアター

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H28/4/1～30	〈司馬遼太郎と城を歩く 第8巻〉 五稜郭・平戸城・会津若松城・江戸城	25日	307人	12人
5/1～31	〈森浩一が語る日本の古代 第8巻〉 出雲・吉備の地域学	23日	204人	8人
6/1～30	〈日本の味・伝統食品～日本人は何を食べてきたか?〉かつおだし	20日	130人	6人
7/1～31	〈奇跡の映像 よみがえる100年前の世界〉 第1巻 大富豪カーンの“夢”	27日	193人	7人
8/2～31	〈NHKスペシャル ドキュメント太平洋戦争 第5集〉踏みにじられた南の島～レイテ・フィリピン～	26日	167人	6人
9/1～30	〈森浩一が語る日本の古代 第3巻〉 縄文時代 東の文化	26日	275人	10人
10/1～30	〈東ニューギニア探検記録(東海テレビ制作)〉 ①シン・シン ②ピグミー	25日	372人	14人
11/1～30	〈森浩一が語る日本の古代 第2巻〉 縄文時代 森の文化 海の文化 山の文化	26日	396人	15人
12/1～27	〈日本の染と織2〉かいこ	23日	93人	4人
H29/1/5～31	〈ふるさとの伝承8〉雪の中に歓びあり －新潟県・二十村郷の越冬－	22日	133人	6人
2/1～28	〈千葉県指定無形民俗文化財〉上総十二社祭り	23日	112人	4人
3/1～31	〈昭和こどもキネマ 児童映画編3〉 朝風に乗って	26日	122人	4人
H28/4/1～H29/3/31の合計値・平均値		292日	2,504人	8人

午前11時の名画座

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H28/4/1～30	〈菅江真澄の旅 第2巻〉 青森・津軽編－いではみちの奥見にまからん－	25日	149人	5人
5/1～31	〈菅江真澄の旅 第3巻〉岩手編	25日	138人	5人
6/1～30	〈珠玉の仏教美術5〉運慶と快慶	20日	154人	7人
7/1～31	〈司馬遼太郎と城を歩く 第4巻〉 上田城・高取城・洲本城・丸亀城	27日	232人	8人
8/2～31	〈日本の近代化遺産 第2巻〉 鉄は国家なり－九州の近代化遺産－	26日	98人	3人
9/1～30	〈ふるさとの伝承17〉 湖と生きる－びわ湖の四季の暮らし－	26日	163人	6人
10/1～30	〈日本の近代化遺産 第3巻〉 帝都誕生－東京の近代化遺産－	26日	249人	9人
11/1～30	〈菅江真澄の旅 第6巻〉秋田編	26日	261人	10人
12/1～27	〈千葉県指定無形民俗文化財〉おらんだ楽隊	23日	81人	3人
H29/1/5～31	〈菅江真澄の旅 第4巻〉北海道編	22日	111人	5人
2/1～28	〈菅江真澄の旅 第5巻〉青森・下北編	23日	125人	5人
3/1～31	〈日本の近代化遺産 第4巻〉 古都の文明開化－京都の近代化遺産－	26日	135人	5人
H28/4/1～H29/3/31の合計値・平均値		295日	1,896人	6人

土日祝日のキッズシアター

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H28/4/2～30	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 花さか爺さん・一寸法師・おむすびころりん	10日	99人	9人
5/1～28	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 夢を買った男・ねずみ経・牛の嫁入り	11日	120人	10人
6/4～19	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 八つ化け頭巾・ほれ薬・猿地蔵	5日	31人	6人
7/2～30	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 織姫と彦星・闇夜にカラス・髪そり狐	10日	81人	8人
8/6～28	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 そそくの相九郎・オンパの皮・いもころがし	9日	59人	6人
9/3～24	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 火男・ねずみのすもう・和尚と小僧のぷ～ぷ～ば たばた	9日	96人	10人
10/1～30	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 三つの斧・猿の婿どの・天狗と盗人	8日	121人	15人
11/5～27	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 屁ひり嫁・猫と茶釜の蓋・ちゃくりかきふ	9日	99人	11人
12/3～25	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 ねずみの婿取り・小石の手紙・だんまりくらべ	8日	29人	3人
H29/1/7～29	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 浦島太郎・金太郎・力太郎	8日	60人	7人

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
2/4～25	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 うぐいすの里・平林・宝くらべ	7日	40人	5人
3/4～26	アニメ〈ふるさと再生 日本の昔ばなし〉 いかとするめ・三人泣き・大工と鬼六	6日	17人	2人
H28/4/2～H29/3/26の合計値・平均値		100日	852人	8人

■プレイルーム

年齢を問わず、いつでも来館者が楽しめる場所として無料で開放している。体験プログラムとして、①やってみようアンギン編み、②つくってみようコースター、③着てみようアンギン編みの服、④つかってみよう糸車の4種類を実施した。また、「常設展示ぬりえ！」を設け、子どもからおとなまで、誰でもぬりえを楽しんでもらえるようにしている。

平成28年度利用者総数 10,787人

(5) 館内公開

対象者	子どもから一般
開催月日	①平成28年5月5日(木・祝)10:00～11:00 ②平成28年8月7日(日) 10:00～11:00
内容	博物館の多様な活動を理解していただくため、通常は非公開のバックヤード(車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫)を紹介・解説した。
講師	①中山 文人(当館学芸員) ②青木 俊也・小林 孝秀(当館学芸員)
応募人数	①事前応募12人、当日申込4人 ②事前応募10人、当日申込0人 (※各回定員15人)
参加人数	延べ25人(①16人②9人)

(6) ガイドツアー(常設展示解説)

平成28年度は212回行い1,092人が参加した。

「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで2名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日午前10時と午後2時から行った(解説時間約30分間)。なお、団体観覧者においては適宜開催した。

(7) 情報提供

■ 閲覧コーナー

博物館利用者の学習支援のため、当館の購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行なっている。蔵書の一部は開架で提供している。

・蔵書数(平成29年 3月31日現在)

開架図書冊数 1,218冊

閉架図書冊数 37,080冊

・閉架図書の利用状況(平成28年 4月1日～平成29年 3月31日)

利用人数: 53人

利用冊数: 145冊

・視聴覚資料数(平成29年 3月31日現在)

ビデオテープ 408巻

C D 88枚

D V D 51枚

■ 刊行物

平成28年度の刊行物はつぎの通りである。

・松戸市立博物館年報 第23号

A 4判64頁(本文64頁) 500部 平成28年 8月31日

・松戸市立博物館紀要 第24号

A 4判70頁(本文61頁) 800部 平成29年 3月31日

■ ミュージアムショップ

受付横にミュージアムショップを開設し、刊行物とミュージアムグッズを販売している。

ミュージアムグッズ			
ジグソーパズル	5種類(各900円)、1種類(1,200円)	クリアホルダー	3枚セット 100円
絵はがき	8種類(各80円)、5種類(各100円)	ミニクリアホルダー(景清・阿沙丸・土偶)	各200円
テレホンカード	4種類 各700円	(※28年9月末まで販売)	3枚セット 500円
埴輪ぬいぐるみキーホルダー(馬・人)	各350円	一筆箋(シルクロード・朱印状)	各300円
土鈴セット	200円	縄文土器レプリカ 深鉢形土器 3種類	9,000円
メモ帳	100円		～10,000円
虚無僧ストラップ(青・赤・緑)	各750円	クリアホルダー(コシッキー 1体・3体)	各150円
虚無僧錦絵・絵はがきセット	350円		
図 録			
改訂版 常設展示図録(平成16年度)	1,500円	企画展 弥生人の脳発見!	完売
開設記念展 松戸写真館	完売	－とっとり青谷上寺地遺跡展－(平成14年度)	
－カメラがとらえた松戸の人々－(平成5年度)		企画展 はにわの十字路	1,000円
特別展 縄文土器の世界(平成5年度)	1,000円	－古代東国の交流と地域性－(平成14年度)	
企画展 救いの民俗	完売	特別展 川の道 江戸川(平成15年度)	1,000円
－地獄極楽冥土の旅－(平成6年度)		企画展 昔のくらし探検<松戸版>(平成16年度)	500円
特別展 馬と牧	完売	企画展 ペルシャ文明の曙	1,000円
－かつて松戸は牧場だった－(平成6年度)		－文明の基層を探る－(平成17年度)	
企画展 稲と魚	900円	企画展 戦国の城をさぐる	1,000円
－水田をめぐる漁・猟・採集－(平成7年度)		－松戸市根本内歴史公園開園記念－(平成18年度)	
特別展 古墳時代の飾り馬	完売	企画展 大名の旅	1,000円
－馬利用のはじまりをさぐる－(平成7年度)		－本陣と街道－(平成19年度)	
企画展 小金城主高城氏	1,000円	特別展 縄文時代の東・西(平成20年度)	1,000円
(平成8年度(平成13年度再版))		企画展 人生儀礼の世界(平成21年度)	1,000円
特別展 シルクロードとガンダーラ(平成8年度)	1,500円	企画展 湯浅喜代治考古コレクション	
特別展 福神の世界(平成9年度)	完売	－夢を追った70年－(平成22年度)	1,000円
特別展 ネアンデルタール人の復活(平成10年度)	1,000円	企画展 東日本の古墳と渡来文化	1,000円
		－海を越える人とモノ－(平成24年度)	

図		録	
企画展 水戸道中 - 宿場と旅人 - (平成10年度)	完売	特別展 松戸の発掘60年史 - 市内の遺跡を再検討 - (平成25年度)	1,000円
特別展 貝塚を考える (平成10年度)	1,200円	企画展 Plastic ? / Plastic ! - 高度経済成長とプラスチック - (平成26年度)	1,000円
企画展 戦後松戸の生活革新 - 新しい暮らし方へのあこがれ - (平成12年度)	完売	企画展 石斧と人 - 3万年のあゆみ - (平成28年度)	800円
企画展 中世の東葛飾 - いのり・くらし・まつりごと - (平成13年度)	1,200円		
紀		要	
松戸市立博物館紀要 第1号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第13号	400円
松戸市立博物館紀要 第2号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第14号	500円
松戸市立博物館紀要 第3号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第15号	500円
松戸市立博物館紀要 第4号	700円	松戸市立博物館紀要 第16号	600円
松戸市立博物館紀要 第5号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第17号	500円
松戸市立博物館紀要 第6号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第18号	500円
松戸市立博物館紀要 第7号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第19号	400円
松戸市立博物館紀要 第8号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第20号	500円
松戸市立博物館紀要 第9号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第21号	600円
松戸市立博物館紀要 第10号	1,000円	松戸市立博物館紀要 第22号	500円
松戸市立博物館紀要 第11号	500円	松戸市立博物館紀要 第23号	400円
松戸市立博物館紀要 第12号	500円	松戸市立博物館紀要 第24号	300円
資料集・報告書			
松戸市立博物館歴史資料集1 東漸寺所蔵資料目録	700円	松戸市立博物館歴史資料集2 青木源内家所蔵資料目録追加	700円
松戸市立博物館報告書1 松戸の三匹獅子舞 (VTR含む)	5,400円	松戸市立博物館報告書4 松戸旧宿場町建築物調査報告書	2,100円
松戸市立博物館報告書2 縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1,200円	松戸市立博物館映像記録VTR 送り大師 東葛飾印旛大師講の人々	完売
松戸市立博物館報告書3 松戸市民家調査報告書	完売	松戸市立博物館報告書5 農村松戸の民俗 - 1960年代調査の記録 -	800円
松戸市史			
松戸市史 上巻	完売	松戸市古文書目録(三)「本土寺文書他」	2,000円
松戸市史 上巻(改訂版)「原始・古代・中世」	3,000円	松戸市古文書目録(四)「秋谷家文書」	2,500円
松戸市史 中巻「近世」	5,500円	松戸市史考古資料集1 大谷口遺跡の土師器と須恵器	300円
松戸市史 下巻(一)「明治」	4,000円	松戸市史考古資料集2 千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする 考古資料	300円
松戸市史 下巻(二)「大正・昭和」	3,900円	松戸市史考古資料集3 関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告 寒風台遺跡出土石器再整理報告	300円
松戸市史史料編(一)「大熊家文書」	2,800円	松戸市史考古資料集4 上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を 中心とする考古資料	400円
松戸市史史料編(二)「近世諸家文書」	完売		
松戸市史史料編(三)「萬満寺史料」	3,500円		
松戸市史史料編(四)「本土寺史料」	5,500円		
松戸市史史料編(五)上「秋谷家文書」	8,050円		
松戸市史史料編(五)下「秋谷家文書」	7,500円		
松戸市史史料編(六)「東漸寺史料」	5,000円		
松戸市古文書目録(一)「諸家文書」	1,100円		
松戸市古文書目録(二)「諸家文書」	1,500円		

(8) 博物館実習

募集要項を「広報まつど」および当館ホームページに掲載したところ6名の応募があり、書類審査の結果全員を受け入れることにした。実習生の氏名・所属および実習内容は以下のとおり。

平成28年度博物館実習生

班	大学名	氏名	学部各科専攻
第1班	聖徳大学	鈴木 将太	通信教育部文学部文学科4年
	青山学院大学	井坂 圭	文学部史学科4年(日本現代史)
	大正大学	飯田 裕典	科目等履修生
第2班	大正大学	上田 祥生	文学部歴史学科4年(東洋史)
	共立女子大学	石井あかね	家政学部科目等履修生(染色文化史)
	国士舘大学	八木沢真穂	文学部史学地理学科考古・日本史学専攻4年(近世史)

(1) 合同実習

月 日	午 前	午 後
7月24日(日)	実習内容説明、館内バックヤード見学	展示見学、質疑応答

(2) 個別実習

第1班 平成28年7月28日(木)～8月3日(水)

月 日	午 前	午 後
7月28日(木)	近世・近代文書整理	同左
7月29日(金)	こども体験教室「親も楽しむ土鈴づくり」準備	同左
7月30日(土)	こども体験教室「親も楽しむ土鈴づくり」補助	同左
7月31日(日)	流山市立博物館見学	松戸市戸定歴史館見学
8月2日(火)	来館者空間調査・研究	同左
8月3日(水)	来館者空間研究の発表	まとめ・レポート執筆など

第2班 平成28年8月4日(木)～8月10日(水)

月 日	午 前	午 後
8月4日(木)	近世・近代文書整理	同左
8月5日(金)	こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」準備	同左
8月6日(土)	こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」補助	同左
8月7日(日)	流山市立博物館見学	松戸市戸定歴史館見学
8月9日(火)	来館者空間調査・研究	同左
8月10日(水)	来館者空間研究の発表	まとめ・レポート執筆など

(9) 教員・生徒・児童の職場研修・職場体験学習の受け入れ

学校から個別に依頼を受けて、博物館の活用等を目的とした小学校教員対象の体験研修と小学校・中学校・高等学校の児童・生徒の勤労観・社会観を育成するための職場体験学習を行った。

- 〈10年経験者研修〉 平成28年8月17日(水)、18日(木)竹ノ上景子(松戸市立上本郷小学校教諭)
平成28年8月24日(水)、25日(木)岩田知恵・大塚 彩(松戸市立相模台小学校教諭)
- [高校生] 平成28年7月22日(金)自見颯花・渡部佳怜(千葉県立小金高等学校1年生)
- [中学生] 平成28年11月25日(金)前田理来・藤田太一(松戸市立小金南中学校2年生)
平成28年12月8日(木)米澤明里・村松優美(松戸市立古ヶ崎中学校2年生)
平成29年1月20日(金)佐藤辰城・工藤悠生(松戸市立第一中学校2年生)
- [小学生] 平成28年6月14日(火)富永俊佑・青木錬・松丸颯太(松戸市立高木小学校6年生)
及び随行者1名

4 協働事業

(1) 姉妹都市提携45周年記念事業「オーストラリアの魅力と姉妹都市45年の歴史」

(〈公財〉松戸市国際交流協会との連携企画)

■オーストラリア児童絵画展(スクールアートエクスチェンジプログラム)

展示意図 松戸市とオーストラリアのホワイトホース市との姉妹都市提携45周年を記念して、ホワイトホース市の児童の絵画作品を展示した。

主催 (公財)松戸市国際交流協会

会期 平成28年4月26日(火)～5月8日(日)

会場 企画展示室前ロビー

観覧者数 館蔵資料展「幸田貝塚の世界」と同時開催のため、企画・特別展示等観覧者数には計上していない。

観覧料 無料

展示数 35点

■基調講演「姉妹都市提携45周年を迎えて」(会場:講堂)

対象者 松戸市国際交流協会員

開催月日 平成28年10月15日(土)

講師 飯沼誠(〈公財〉松戸市国際交流協会理事長)

■実践報告「松戸市とホワイトホース市をつなぐ仕事を経験して」(会場:講堂)

対象者 松戸市国際交流協会員

開催月日 平成28年10月15日(土)

報告者 スコット・エリン氏(松戸市国際交流員)

■企画展・常設展見学ツアー

対象者 松戸市国際交流協会員

開催月日 平成28年10月15日(土)

担当 大森隆志(当館学芸員)

参加人数 40人

(2) ナイトミュージアム&昆虫ナイトウォッチング

(主催: ナイトミュージアム実行委委員会 共催: 松戸市教育委員会・松戸市立博物館)

対象者 松戸市内在学の小学3・4・5年生と保護者

開催月日 平成28年8月7日(日)

内容 博物館を夜間に見学し、歴史を題材にしたクイズを行った。また、21世紀の森と広場に集まる虫を採集し、観察した。

参加人数 60人



(3) 博物館デー (会場:松戸市民劇場)

対象者 生涯学習大学講座受講生・松戸市立博物館友の会会員・一般

開催月日 平成29年1月19日(木)

内容 生涯学習推進課の協力のもと、生涯学習大学講座と友の会、博物館との連携を図るため、館

外での広報活動として、羽毛田信吾氏(昭和館館長)の講演、中山文人(当館学芸員)のミュージアムトーク、博物館友の会役員による会の活動紹介を実施した。

〈日 程〉

13:30 主催者挨拶 当館館長 望月幹夫

13:35 趣旨説明

13:40 講演 羽毛田信吾氏(昭和館館長)「皇室が伝える日本の伝統文化」

14:40 休憩

14:50 ミュージアムトーク 中山文人(当館学芸員)「小さな古文書がおしえてくれる大きな歴史」

15:35 博物館友の会の活動報告

16:05 閉会挨拶

参加人数 196人

(4) 松戸市PTA連絡協議会研修会 (会場:講堂)

(松戸市教育委員会生涯学習推進課・博物館連携事業)

対 象 者 松戸市PTA連絡協議会会員

開催月日 平成29年3月27日(月)

内 容 松戸市PTA連絡協議会会員を対象にした研修会で、博物館見学を実施した。

参加人数 65人

5 調査・研究

(1) 研究員の活動

村井 良子 (プランニング・ラボ)

研究テーマ:「子ども向け展示の研究」

常設展示室及び学習資料展「昔のくらし探検」に対する展示評価をもとに、今後の展示リニューアル準備の一環として、子ども向け展示の計画を研究した。具体的には、韓国のこども博物館施設の事例を紹介するとともに、(仮称)子ども歴史博物館の構想計画について、分析を行った。

柴田 徹 (東海大学講師)

研究テーマ:「偏光顕微鏡を用いた土器胎土分析による松戸市内縄文土器とブルガリア先史土器の比較研究」

上記テーマの基礎研究として、松戸市内出土土器(縄文時代中期土器)の胎土分析を行った。

岩瀬 彬 (首都大学東京助教)

研究テーマ:「磨製石斧の使用痕分析」

河原塚遺跡で出土した、縄文土器に埋納された磨製石斧と貝層から出土した磨製石斧の使用痕比較研究を行った。研究成果は、平成28年度企画展「石斧と人－3万年のあゆみ」の展示解説パネルと同展の展示図録に掲載した。

中川 洋 (法政大学兼任講師)

研究テーマ:「陸軍鉄道聯隊演習線の研究」

鉄道聯隊によって千葉県内に敷設された演習線について、その建設の背景および経緯、訓練や運用の実態、戦後の跡地利用についての研究を行った。

(2) 学芸員の活動

山田 尚彦 専門分野:日本民俗学・文化人類学

研究テーマ:「地域社会における民俗芸能の継承と葛藤に関する研究」

「近代知識の大衆化に関する歴史社会学的研究」

[年間活動]

- ・こども体験教室講師「親も楽しむからくりおもちゃ〈初級編〉パタパタをつくろう」(2回・平成28年8月21日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむからくりおもちゃ〈応用編〉からくり屏風をつくろう」(2回・平成28年8月28日)
- ・講演会講師 学芸員講演会「セルロイド人形と日本のプラスチック産業」(平成28年7月31日)

[外部機関等協力活動]

- ・出前授業「「三匹獅子舞」ってなんだろう～古くからつたわるげいのう」(松戸市立東松戸小学校 平成29年2月16日)
- ・出前授業「「三匹獅子舞」ってなんだろう～古くからつたわるげいのう」(松戸市立常盤平第二小学校 平成29年2月24日)
- ・千葉大学非常勤講師「博物館資料論A」(平成28年10月1日～平成29年3月23日)

[所属学会]

日本文化人類学会、日本民具学会、相模民俗学会、地方史研究協議会、文化資源学会、日本生活学会、日本風俗史学会、日本家政学会、日本写真学会、メディア史研究会、情報知識学会、文化財保存修復学会、American Anthropology Association

中山 文人 専門分野:日本中世史

研究テーマ:「関東中世史の研究」

[年間活動]

- ・平成28年度限定展示「西原文書の世界」担当(総合展示室中世コーナー 平成28年4月29日～平成29年3月31日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむ米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」(10回・平成28年5月7日～平成29年1月28日)
- ・講座講師「戦国末期の史料を読む」(6回・平成28年9月9日～11月18日の隔週金曜日)
- ・講演会講師 学芸員講演会「西原文書の世界」(平成28年6月12日)
- ・ミュージアムトーク「小さな古文書がおしえてくれる大きな歴史」(松戸市立博物館「博物館デー」 平成29年1月19日)

[外部機関等協力活動]

- ・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／マツドの中世」(マロン会主催 平成28年7月15日)
- ・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／マツドの中世～小金・本土寺とその周辺から～」(ばそこん119元気応援くらぶ主催 平成28年7月22日)

[執筆]

- ・「新収蔵の西原文書について」『松戸市立博物館紀要』第24号 松戸市立博物館 平成29年3月31日

[所属学会]

歴史学研究会、日本史研究会、地方史研究協議会

青木 俊也 専門分野:民俗学

研究テーマ:「戦後生活史展示の研究」「葬墓習俗の研究」

[年間活動]

- ・館蔵資料展「くらしのなかの着物」担当(平成28年7月16日～9月4日)
- ・学習資料展「昔のくらし探検」担当(平成29年1月14日～3月26日)
- ・こども体験教室講師「親も楽しむ米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」(10回・平成28年5月7日～平成29年1月28日)
- ・体験教室講師「はたおり体験」(平成28年7月23日、8月6日、8月20日、9月3日)
- ・体験教室講師「裂き織りをしてみませんか」(15回・平成29年2月8日～10日)
- ・体験教室講師「自分でつくる糸と布」(2回・平成29年2月15日、2月17日)
- ・講座講師「博物館の民俗学Ⅲ」(3回・平成28年8月20日、9月3日、9月24日)
- ・講演会講師 学芸員講演会「子どもと博物館－『昔のくらし探検』を展示して13年」(平成29年1月22日)

[外部機関等協力活動]

- ・親子文化財史跡めぐり講師(松戸市教育委員会社会教育課より依頼、会場:松戸市立博物館、平成28年7月27日)
- ・立教大学兼任講師学校・社会教育講座「民俗学」1(平成28年4月1日～9月19日)
- ・神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師「博物館民俗資料学特論」「博物館歴史資料学特論」(平成28年9月16日～平成29年1月23日)

[所属学会]

日本民俗学会、地方史研究協議会、日本展示学会

大森 隆志 専門分野:考古学

研究テーマ:「中世地下式坑の考古学的研究」

[年間活動]

- ・平成28年度企画展「石斧と人－3万年のあゆみ」担当(平成28年9月17日～11月23日)
- ・こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」講師(2回・平成28年5月3日)

・講演会講師 学芸員講演会「石斧と人－企画展の見どころ」(平成28年9月25日)

[執筆]

・「マイ・フェイバレット・サイト145 小野遺跡－千葉県松戸市－」『アルカ通信』(平成28年5月1日)

・(共編著)『平成28年度企画展 石斧と人－3万年のあゆみ』松戸市立博物館(平成28年9月17日)

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、縄文時代文化研究会、山梨県考古学協会、文化経済学会〈日本〉、日本アートマネジメント学会

柏木 一郎 専門分野:日本近代史

研究テーマ:「近代日本政治外交史・近代日本軍事史の研究」

[年間活動]

・ミニ写真展担当(平成28年4月1日～29年3月31日)

・講座講師「松戸の歴史をさぐる 近現代編」(平成28年11月19日、12月3日・17日)

・講演会講師 学芸員講演会「『松戸町報』から見た大正時代の松戸」(平成28年12月4日)

[外部機関等協力活動]

・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／徳川慶喜と松戸徳川家について」(いきいきサロン主催 平成28年6月4日)

・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／松戸徳川家と戸定邸」(新松戸サンライトパストラル6番街自治会主催 平成28年7月17日)

・松戸市パートナー講座講師「松戸の歴史を学ぼう／写真にみる昭和の松戸」(岩瀬ときめきクラブ主催 平成29年2月4日)

・法政大学通信教育部兼任講師「日本近代史」(平成28年4月7日～7月21日)

・法政大学文学部兼任講師「教職日本史」(平成28年9月16日～29年3月31日)

[執筆]

・「明治期の松戸町の歴史」『松戸神社神楽殿の絵画と修復展』松戸市教育委員会 平成29年1月21日

[所属学会]

歴史学会、明治維新史学会、東アジア近代史学会、日本台湾学会、洋学史学会、法政大学史学会

小林 孝秀 専門分野:日本考古学・東アジア考古学

研究テーマ:「古墳時代東国社会の研究」「古代東アジア交流史の研究」

[年間活動]

・館蔵資料展「幸田貝塚の世界」担当(平成28年4月26日～6月12日)

・こども体験教室講師「親も楽しむ勾玉づくり」(5回・平成28年5月3日、8月6日)

・こども体験教室講師「親も楽しむ土鈴づくり」(2回・平成28年7月30日)

・講演会講師 学芸員講演会「古墳の終焉と火葬墓の展開」(平成29年2月26日)

[外部機関等協力活動]

・講演会講師「発掘された原始・古代の松戸」(専修大学松戸中学校社会科講演会、会場:専修大学松戸中学校高等学校内多目的ホール、平成28年6月11日)

・講座講師「定年後のいきいき人生支援講座～これからの人生設計のために」(まつど塾主催、松戸市教育委員会生涯学習推進課支援、会場:松戸市立博物館 平成28年6月8日)

・講演会講師「海から見た房総－古墳時代－」(シニアサークル・シルバー大学院 会場:鎌ヶ谷市東部学習センター 平成28年7月20日)

・共同研究検討会講師「金鈴塚古墳の石室構造と石棺・木棺」(金鈴塚古墳共同研究事業・金鈴塚古墳共同研究検討会 会場:木更津市郷土博物館金のすず 平成29年1月28日)

・専修大学文学部非常勤講師「歴史学C(通年)/歴史学301(前期)・歴史学302(後期)」「日本史(通年)/日本史a(前期)・日本史b(後期)」(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

[執筆]

- ・「訪ねて学べる 古墳&博物館60」『古墳時代 美術図鑑』別冊太陽 日本のこころ246 平凡社 平成29年1月16日
- ・「太平洋沿岸における横穴式石室の伝播」『学術研究集会 海を古墳を考えるVI 三河と伊勢の海—古墳時代の海道を往還する—』学術研究集会「海を古墳を考えるVI」実行委員会・海を古墳を考える会 平成29年3月11日
- ・「松戸市河原塚4号墳の発掘調査と出土遺物」『松戸市立博物館紀要』第24号 松戸市立博物館 平成29年3月31日

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、東北・関東前方後円墳研究会、茨城県考古学協会、埴輪研究会、韓国考古学会、嶺南考古学会、専修大学歴史学会

富澤 達三 専門分野:日本近世史・歴史民俗資料学

研究テーマ:「図像資料による江戸後期から明治初頭の常民文化の研究」「動物から探る松戸の近世」

[年間活動]

- ・講座講師「古文書を読む(近世入門編)」担当(5回・平成29年1月7日～3月4日の隔週土曜日)
- ・「江戸落語を聞く会」冒頭講演「日本の話芸」(平成28年12月3日)
- ・講演会講師 学芸員講演会「お江戸の事件と錦絵I」(平成29年3月12日)

[外部機関等協力活動]

- ・松戸宿巡見講師(千葉県教育研究会松戸支会より依頼、平成28年8月2日)
- ・講演会講師「お江戸の重大事件と錦絵—ゆるキャラが走る」(葛飾区郷土と天文の博物館、平成28年11月6日)
- ・首都大学東京非常勤講師「博物館経営論」(平成28年4月1日～9月30日)
- ・神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター客員研究員(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

[執筆]

- ・「絵引研究のインパクト」『非文字資料研究センター News Letter』No.36 神奈川大学非文字資料研究センター 平成28年9月30日
- ・「絵図から見た松戸宿と松戸神社」『松戸神社神楽殿の絵画と修復展』松戸市教育委員会 平成29年1月21日
- ・「アニメのなかの生と性、暴力、そして死」『非文字資料研究センター News Letter』No.37 神奈川大学非文字資料研究センター 平成29年1月31日
- ・「絵引研究」のあゆみと課題」『松戸市立博物館紀要』第24号 松戸市立博物館 平成29年3月31日

[所属学会]

地方史研究協議会、関東近世史研究会、明治維新史学会、日本民俗学会、国際浮世絵学会、日本風俗史学会

	申請日	利用日	利用者	利用方法	利用目的	利用資料・点数
13	7月5日	7月14日～9月4日	伊那市教育委員会	写真利用	チラシ等に掲載するため	文調画「五代市川團十郎の五郎と初代市川高麗蔵の十郎」1点
14	7月21日	7月31日	㈱毎日放送	写真利用	テレビ番組で使用するため	幸田貝塚出土片口付深鉢形土器写真 2点
15	7月26日	8月10日	松戸よみうり新聞社	写真利用	利用者編集誌に掲載するため	松戸の河岸の復元模型写真 1点
16	8月1日	10月1日	新京成電鉄㈱	写真利用	記念乗車券に使用するため	常盤平駅写真 他7点
17	8月4日	9月30日	ポーラ文化研究所	写真利用	利用者発行誌に掲載するため	常盤平団地 2DK写真 2点
18	8月9日	10月31日	㈱吉川弘文館	写真利用	『日本生活史辞典』に掲載するため	ガスコンロ写真 他9点
19	8月28日	8月28日	個人	写真利用	現代美術の作画資料として	「二十五菩薩来迎図」写真 他13点
20	9月7日	10月1日	新京成電鉄㈱	写真利用	記念乗車券に使用するため	常盤平団地写真 6点
21	9月16日	10月1日	新京成電鉄㈱	写真利用	広告電車に使用するため	常盤平団地写真 1点
22	10月13日	平成29年4月1日	明治図書出版㈱	写真利用	中学校用社会副教材に掲載するため	常盤平団地 2DK写真 1点
23	10月18日	平成28年10月25日	㈱吉川弘文館	写真利用	『日本生活史辞典』に掲載するため	行人台遺跡出土鑄造鉄斧・多孔式甗写真 1点
24	10月20日	11月28日	㈱日月	写真利用	利用者編集誌に掲載するため	常盤平団地 2DK写真 1点
25	10月26日	平成29年1月31日	オフィスブルー	写真利用	ポプラ社『人物事典』に掲載するため	松戸覚之助肖像写真 1点
26	11月18日	平成28年11月24日	個人	写真利用	古文書学習のため	「文政十三年 御用留」1点
27	12月2日	平成29年1月24日	㈱小学館	写真利用	こども百科隔週刊『ワンダーキッズベディ』に掲載するため	常盤平団地 2DK写真 1点
28	12月7日	平成28年12月下旬	東京新聞社松戸通信部	写真利用	新聞記事に使用するため	松戸駅写真 他7点
29	12月14日	12月14日	個人	調査	調査・研究のため	昭和35年撮影の航空写真 3点
30	12月27日	平成29年1月12・13日	レッキーロケーションサービス㈱	動画撮影	テレビCM製作のため	復元竪穴住居 2棟
31	平成29年1月8日	1月19日	個人	調査・写真撮影	調査・研究のため	幸田貝塚出土土器 4点
32	1月16日	1月31日	(有)編集室りっか	写真利用	利用者編集誌に掲載するため	常盤平団地 2DK写真 1点
33	1月18日	1月25日	GMOクリエイターズネットワーク	写真撮影 写真利用	利用者編集誌に掲載するため	常盤平団地 2DK 他1点
34	1月19日	1月19日	個人	調査・写真撮影	調査・研究のため	貝の花遺跡出土土器 3点
35	1月23日	2月3日	㈱オフィスライン	写真利用	テレビ番組で使用するため	松戸駅西口駅前アーケード写真 他1点
36	1月24日	2月8日	個人	映像資料利用	教育・研究の資料とするため	三匹獅子舞概要編和名ヶ谷 他2点
37	1月27日	4月1日	明治図書出版㈱	写真利用	中学校用社会副教材に掲載するため	常盤平団地 2DK写真 1点
38	2月1日	2月27日	個人	写真利用	映像素材として使用するため	松戸の河岸復元模型写真 他4点
39	2月7日	2月17日～3月31日	鎌ヶ谷市郷土資料館	写真利用	『鎌ヶ谷のあゆみ』に掲載するため	人馬参詣図写真 1点
40	2月8日	3月7日	㈱誠文堂新光社	写真利用	『知られざる縄文ライフ』に掲載するため	幸田貝塚出土土器写真 1点
41	2月10日	2月13日	テレビ朝日映像㈱	写真利用	テレビ番組で使用するため	矢切の渡し写真 1点
42	2月14日	2月16日	㈱図書館流通センター	写真利用	『葛飾区史』書籍版・ホームページ版に掲載するため	千代田之御表 松戸宿船橋
43	2月16日	2月24日	NHK	写真利用	テレビ番組「ひよっこ」で使用するため	常盤平団地 2DK写真 5点
44	2月23日	4月12日	松戸市立博物館友の会	写真利用	テキスト作成のため	旧大熊家文書「安政六年御用留」1冊
45	3月9日	3月10日	松戸よみうり新聞社	写真利用 図転載	利用者編集誌に掲載するため	横須賀出土丸木船 他2点

(4) 資料の燻蒸等

[展示室燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。
期 間:平成28年6月20日(月)～6月27日(月)
対 象:常設展示室・企画展示室
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:酸化プロピレン(商品名アルプ)

[燻蒸庫による資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。
期間と対象
第1回 平成28年4月1日(金)～4月15日(金)
歴史資料・写真等
第2回 平成28年12月7日(水)～12月21日(水)
歴史資料・民俗資料等
第3回 平成29年1月11日(水)～1月25日(水)
歴史資料・民俗資料等
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:二酸化炭素(炭酸ガス)

[学習資料展資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。
期 間:平成28年4月1日(金)～4月15日(金)
対 象:民俗資料等
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:二酸化炭素(炭酸ガス)

[野外展示・復元竪穴住居]

殺虫を目的とする防除作業を行った。
期 間:平成28年6月23日(木)～6月24日(金)
対 象:復元竪穴住居3棟
委託先:関東港業(株)
使用薬剤:フェノトリン炭酸製剤(商品名ミラクンS)

7 平成28年度常設展示・企画展示等アンケート結果

■ 調査方法と設問内容

調査は、アンケート用紙をそれぞれ、エントランスホール(常設展示アンケート)と企画展示室前ロビー(企画展示等アンケート)に置き、記入を利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の性別、年齢、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

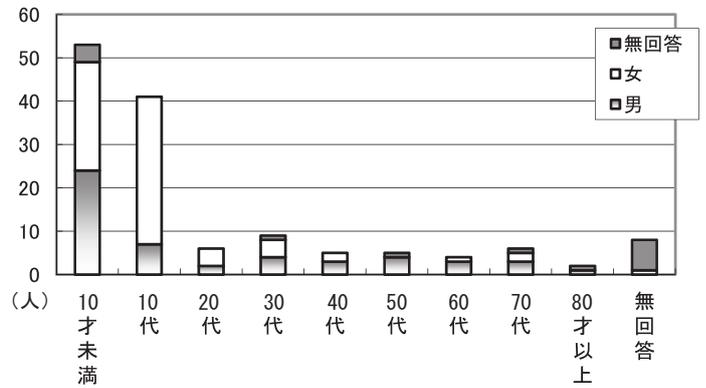
以下に、回答者の傾向を端的に示した“性別”と“年齢”のクロス集計、及び“来館回数”“満足度”という計3項目の結果をとりあげる。

(1) 平成28年度常設展示

- 観覧者数 15,942人
- アンケート有効回答者数 139件(回答率 0.87%)
- 調査期間 平成28年4月1日(金)～平成29年3月31日(金)

■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	24	25	4	53
10代	7	34	0	41
20代	2	4	0	6
30代	4	4	1	9
40代	3	2	0	5
50代	4	0	1	5
60代	3	1	0	4
70代	3	2	1	6
80才以上	1	0	1	2
無回答	0	1	7	8
計	51	73	15	139



■ 来館回数

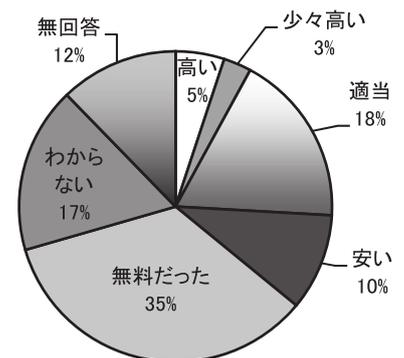
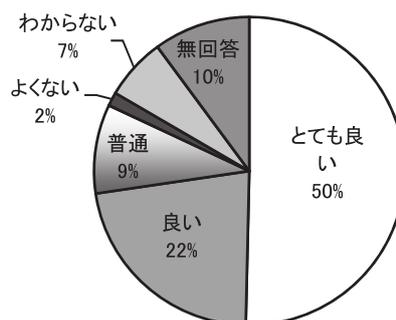
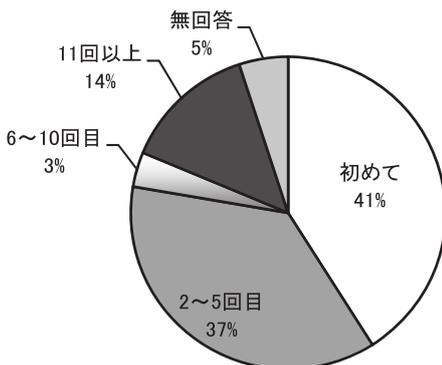
初めて	57
2～5回目	51
6～10回目	5
11回以上	19
無回答	7
計	139

■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	70
良い	31
普通	13
よくない	2
わからない	9
無回答	14
計	139

■ 観覧料について

高い	7
少々高い	4
適当	25
安い	14
無料だった	48
わからない	24
無回答	17
計	139

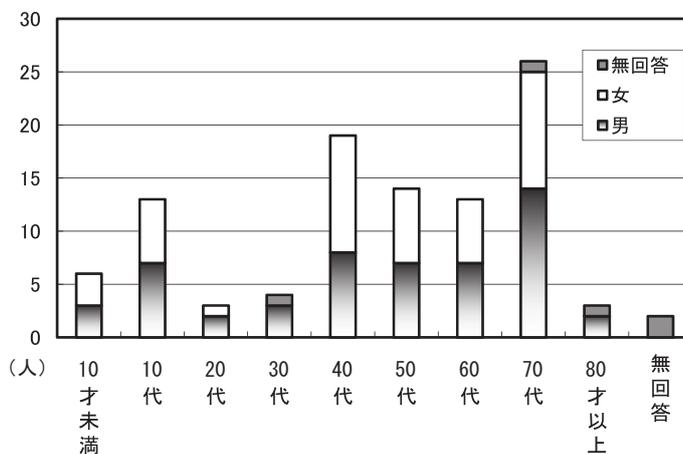


(2) 館蔵資料展「幸田貝塚の世界」

- 観覧者数 5,248人
- アンケート有効回答者数 103件(回答率 1.96%)
- 調査期間 平成28年4月26日(火)～平成28年6月12日(日)

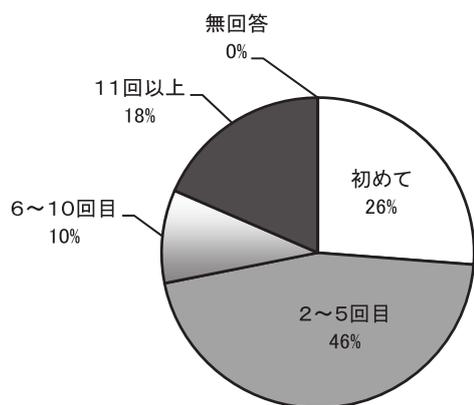
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	3	3	0	6
10代	7	6	0	13
20代	2	1	0	3
30代	3	0	1	4
40代	8	11	0	19
50代	7	7	0	14
60代	7	6	0	13
70代	14	11	1	26
80才以上	2	0	1	3
無回答	0	0	2	2
計	53	45	5	103



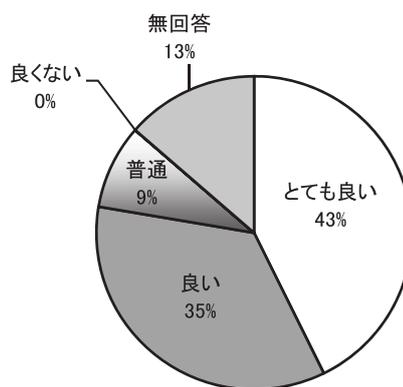
■ 来館回数

初めて	27
2～5回目	47
6～10回目	10
11回以上	19
無回答	0
計	103



■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	44
良い	36
普通	9
良くない	0
わからない	0
無回答	14
計	103

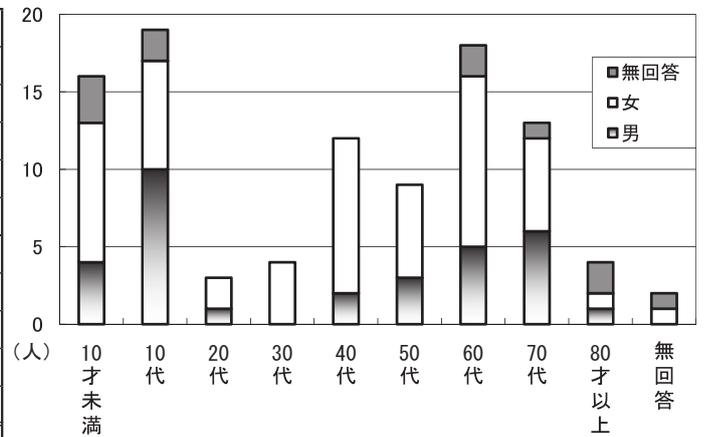


(3) 館蔵資料展「くらしのなかの着物」

- 観覧者数 2,107人
- アンケート有効回答者数 100件(回答率 4.74%)
- 調査期間 平成28年7月16日(土)～平成28年9月4日(日)

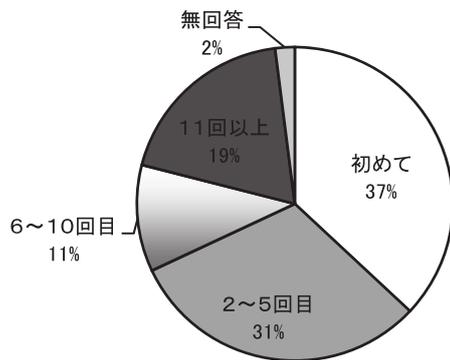
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	4	9	3	16
10代	10	7	2	19
20代	1	2	0	3
30代	0	4	0	4
40代	2	10	0	12
50代	3	6	0	9
60代	5	11	2	18
70代	6	6	1	13
80才以上	1	1	2	4
無回答	0	1	1	2
計	32	57	11	100



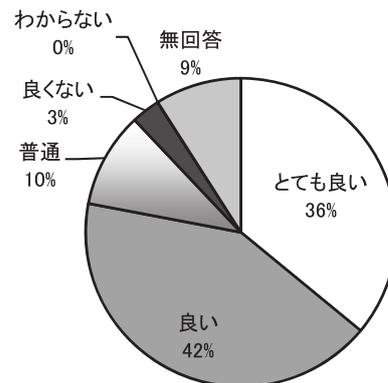
■ 来館回数

初めて	37
2～5回目	31
6～11回目	11
11回以上	19
無回答	2
計	100



■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	36
良い	42
普通	10
良くない	3
わからない	0
無回答	9
総計	100

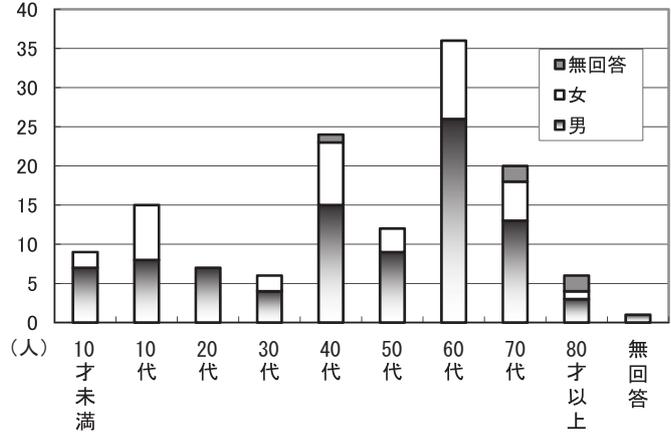


(4) 企画展「石斧と人ー3万年のあゆみ」

- 観覧者数 2,917人
- アンケート有効回答者数 136件(回答率 4.66%)
- 調査期間 平成28年9月17日(土)～平成28年11月23日(水・祝)

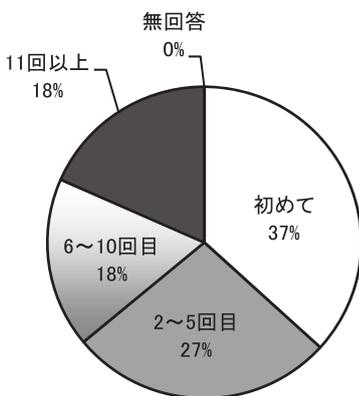
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	7	2	0	9
10代	8	7	0	15
20代	7	0	0	7
30代	4	2	0	6
40代	15	8	1	24
50代	9	3	0	12
60代	26	10	0	36
70代	13	5	2	20
80才以上	3	1	2	6
無回答	1	0	0	1
計	93	38	5	136



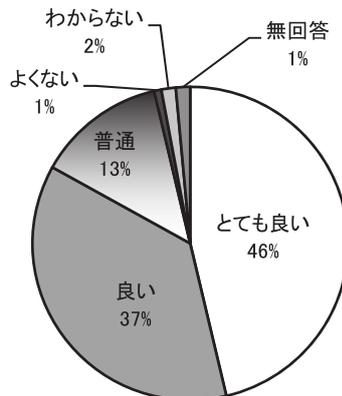
■ 来館回数

初めて	50
2～5回目	37
6～10回目	24
11回以上	25
無回答	0
計	136



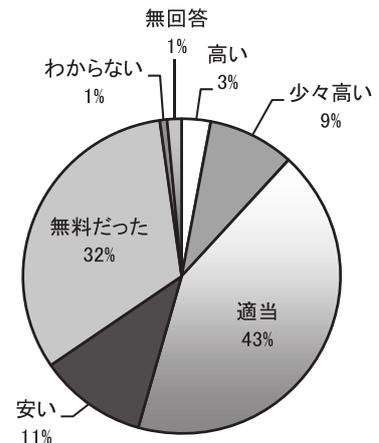
■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	63
良い	50
普通	18
よくない	1
わからない	2
無回答	2
計	136



■ 観覧料について

高い	4
少々高い	12
適当	58
安い	15
無料だった	44
わからない	1
無回答	2
計	136

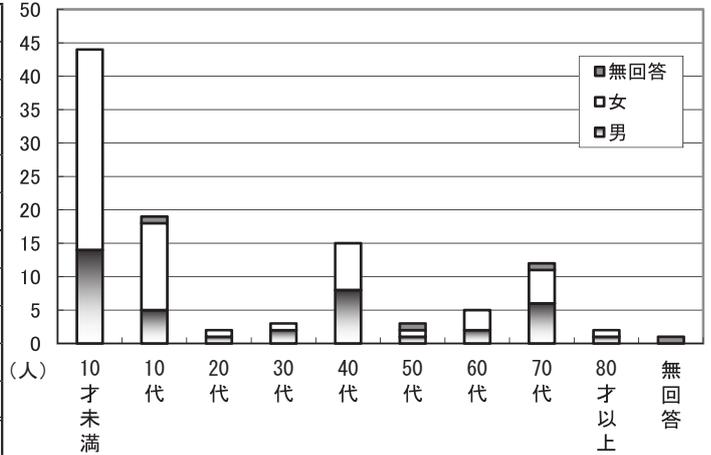


(5) 学習資料展「昔のくらし探検」

- 観覧者数 8,742人
- アンケート有効回答者数 106件(回答率 1.21%)
- 調査期間 平成29年1月14日(土)～平成29年3月26日(日)

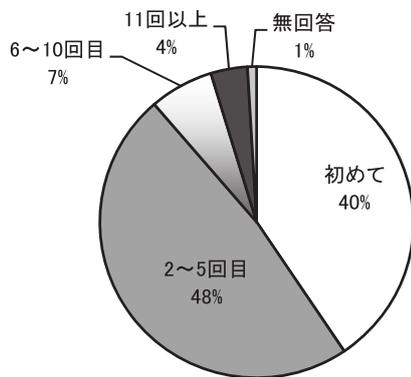
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	14	30	0	44
10代	5	13	1	19
20代	1	1	0	2
30代	2	1	0	3
40代	8	7	0	15
50代	1	1	1	3
60代	2	3	0	5
70代	6	5	1	12
80才以上	1	1	0	2
無回答	0	0	1	1
計	40	62	4	106



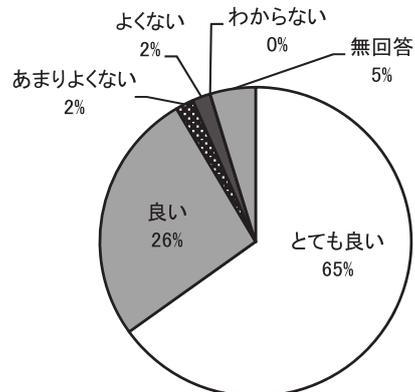
■ 来館回数

初めて	43
2～5回目	51
6～10回目	7
11回以上	4
無回答	1
計	106



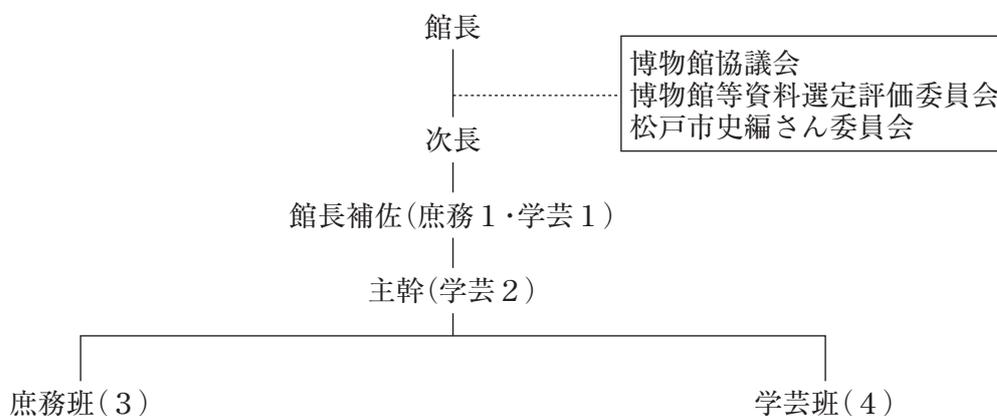
■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	69
良い	28
あまりよくない	2
よくない	2
わからない	0
無回答	5
計	106



IV 組織と運営

1 組織



2 歳出予算

(単位 千円)

事業 科目	予算額	内 訳				
		管 理 運 営	展 示 事 業	学 習 支 援	資 料 収 集	市 史 編さん
報酬	372	204	0	0	100	68
賃金	18,440	0	2,925	10,280	5,235	0
報償	785	0	155	400	230	0
旅費	562	0	471	0	91	0
需用	27,184	20,848	4,033	518	1,785	0
役務	2,706	568	1,928	63	147	0
委託	80,893	59,099	14,526	716	6,552	0
使用	11,208	8,831	1,610	767	0	0
工事	8,000	8,000	0	0	0	0
原材	44	44	0	0	0	0
備品	9,496	86	8,260	100	1,050	0
負担	96	0	0	0	96	0
計	159,786	97,680	33,908	12,844	15,286	68

3 事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館管理運営事業	施設の維持管理を目的としており、館利用者が安全で快適な環境で学習できるよう施設を整備する。また、博物館協議会において、適正な事業方針を審議する。
博物館展示事業	総合展示・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土の歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年4回程度、企画展・資料展・学習資料展を実施する。
博物館学習支援事業	歴史講座・体験教室・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
博物館歴史資産収集調査事業	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い、市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん事業	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史の編さんを行う。 平成10年度に市長から諮問のあった『松戸市史 上巻』の改訂については、平成26年度に『松戸市史 上巻(改訂版)』の刊行を行ったので、現在は、市長からの諮問案件はない。

4 各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

(平成29年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
1号委員 学校教育関係者	田中 祥隆	松戸市立旭町小学校校長
	佐藤 祐介	松戸市立六実小学校教諭
2号委員 社会教育関係者	山口恵理子	松戸青年会議所直前理事長
	岡田 啓時	松戸市立博物館友の会会長
	谷鹿 栄一	千葉県立関宿城博物館館長
3号委員 家庭教育の向上に 資する活動を行う者	関根 恵子	松戸市PTA連絡協議会顧問
4号委員 学識経験者	安蒜 政雄	明治大学教授(考古学)
	濱島 正士	国立歴史民俗博物館名誉教授(建築史学)
	佐藤 孝之	東京大学教授(近世史)
	小島 孝夫	成城大学教授(民俗学)

任期2年 平成29年9月30日まで

(※岡田委員と谷鹿委員は、平成28年6月2日からの委嘱)

第1回協議会

平成28年6月5日(日)

会場：博物館会議室

議題：(1) 平成28年度博物館事業概要の説明
(2) 館蔵資料展「幸田貝塚の世界」内覧と評価
(3) その他

第2回協議会

平成28年11月12日(土)

会場：博物館会議室

議題：(1) 平成28年度博物館事業上半期の報告
(2) 平成29年度博物館事業計画について
(3) 企画展の内覧と評価
(4) その他

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

(平成29年3月31日現在)

氏名	専門	役職等
安蒜 政雄	考古	明治大学教授
金子 隆一	写真	武蔵野美術大学非常勤講師
久保田昌希	歴史	駒澤大学副学長
佐野 賢治	民俗	神奈川大学教授
松尾美恵子	歴史	学習院女子大学名誉教授

任期2年 平成29年3月31日まで

委員会

平成28年度の開催はなし

(3) 松戸市史編さん委員会

委員名簿

(平成28年6月30日現在)

氏名	役職等	
小山田義夫	流通経済大学名誉教授(中世史)	
大井 弘好	もと(財)新松戸郷土資料館館長(郷土史・民俗学)	委員長
中野 達哉	駒澤大学文学部教授(近世史)	副委員長
関根 孝夫	東海大学名誉教授(考古学)	
望月 幹夫	松戸市立博物館館長(考古学)	

任期2年 平成28年6月30日まで

第1回編さん委員会

平成28年6月19日(日)

会場：博物館会議室

議題：(1) 今後の松戸市史編さん事業のあり方について
(2) その他

※松戸市史編さん委員会は、休止となった。

※「3 事務事業」にて記載の通り、平成10年度に市長から諮問のあった事業については、平成26年度で終了したので、現在は、市長からの諮問案件はない。

市史編さん委員会の所掌事務は市史編さん委員会条例第2条に「委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する」と規定されているので、以降の市史編さん委員会の開催は行っていない。

今後の市史編さん事業のあり方については、市史編さんに関する専門の組織を立ち上げて、しっかりとした長期計画のもとで慎重に進めるように市史編さん委員会の委員から意見をいただいている。博物館単独でできる事業ではなく、松戸市として全庁的な協力関係のもとで進める必要があるので、慎重に検討していきたいと考える。

5 博物館利用者数の統計

利用者総計 74,481人

常設展示月別観覧者数、並びに平成28年度企画・特別展示等観覧者数は以下の通りである。

常設展示観覧者数（平成28年4月1日～平成29年3月31日現在）

月	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)							観覧者総数(人)	
		個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等	無料開放日		無料観覧者計
		一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生									
4	25	295	13	0	0	-	-	308	250	29	75	215	32	245	846	1,154
5	25	506	27	0	0	-	-	533	457	32	85	244	76	74	968	1,501
6	20	272	12	56	21	-	-	361	91	24	44	63	96	81	399	760
7	27	338	59	20	24	-	-	441	156	23	72	184	68	-	503	944
8	26	355	34	0	0	-	-	389	10	22	47	256	39	-	374	763
9	26	213	21	32	0	105	3	374	30	35	40	141	29	-	275	649
10	26	156	9	0	0	362	4	531	92	16	102	160	65	-	435	966
11	26	201	14	0	0	187	23	425	46	30	88	165	29	460	818	1,243
12	23	253	31	0	0	-	-	284	2	15	25	119	88	-	249	533
1	22	297	22	0	0	-	-	319	1,857	19	25	206	171	-	2,278	2,597
2	23	350	10	0	0	-	-	360	3,144	35	29	256	23	-	3,487	3,847
3	26	409	18	0	0	-	-	427	49	55	73	308	73	-	558	985
計	295	3,645	270	108	45	654	30	4,752	6,184	335	705	2,317	789	860	11,190	15,942

企画・特別展示等観覧者数

企画・特別展	開催期間	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)							観覧者総数(人)	
			個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等	無料開放日		無料観覧者計
			一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生									
館蔵資料展 「幸田貝塚の世界」	H28.4.26～ H28.6.12	41	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	5,248	5,248
館蔵資料展 「くらしのなかの着物」	H28.7.16～ H28.9.4	44	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	2,107	2,107
企画展「石斧と人 —3万年のあゆみ」	H28.9.17～ H28.11.23	58	409	11	0	0	654	30	1,104	32	73	284	361	656	407	1,813	2,917
学習資料展 「昔のくらし探検」	H29.1.14～ H29.3.26	59	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	8,742	8,742
第1回博物館アワード作品展	H28.12.6～ H28.12.18	12	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	246	246
※「第2回松戸市展選抜展」	H28.4.26～ H28.6.5	(35)	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	(4,668)	(4,668)
※「オーストラリア児童絵画展」	H28.4.26～ H28.5.8	(12)	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	(2,380)	(2,380)
※「中学生 縄文土器に挑戦 作品展」	H28.8.9～ H28.8.21	(12)	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	(535)	(535)
※「高校生 縄文土器に挑戦 作品展」	H28.8.30～ H28.9.11	6 (6)	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	28 (270)	28 (270)
松戸市小中学生優秀作品展 「※子ども県展優秀作品展」	H29.1.14～ H29.1.26	(11)	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	(2,216)	(2,216)
松戸市小中学生優秀作品展 「※松戸市小中学生観光絵画優秀 作品展」	H29.1.28～ H29.2.9	(11)	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	(2,246)	(2,246)
松戸市小中学生優秀作品展 「※明るい社会づくりポスター 優秀作品展」	H29.2.11～ H29.2.23	(11)	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	(2,024)	(2,024)
計		220	409	11	0	0	654	30	1,104	32	73	284	361	656	407	18,184	19,288

※企画展以外については、無料展示につき観覧者の内訳は把握していない。

※括弧内の開館日数及び観覧者数については、同時開催の館蔵資料展又は学習資料展と重複するため合計に含めていない。

博物館無料ゾーン利用者

(下段総数単位：人)

博物館施設名	プレイルーム	映像展示	野外展示	講座・講演会等参加者	合計
日数	295日	295日	295日	—	—
利用者総数	10,787	5,252	17,213	5,999	39,251

博物館利用者総計 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

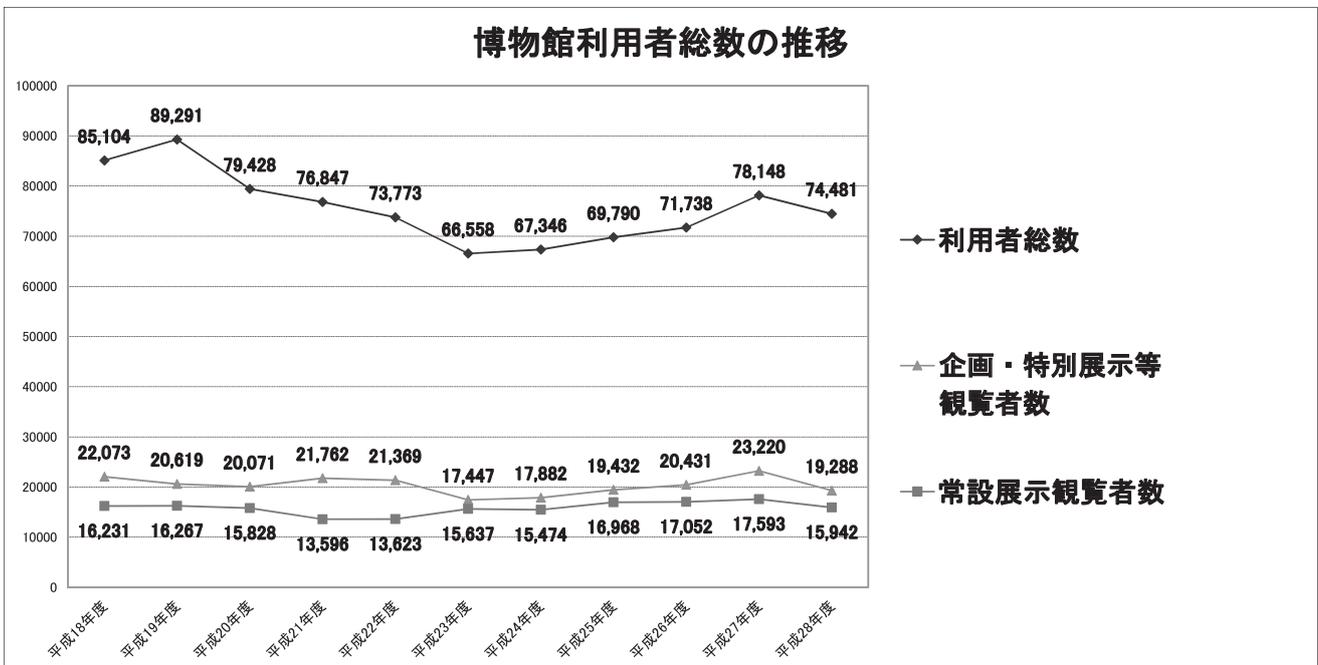
(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	前年度比較
常設展示観覧者数	17,593	15,942	△ 1,651
企画・特別展示等観覧者数	23,220	19,288	△ 3,932
博物館無料ゾーン利用者	37,335	39,251	1,916
利用者総計	78,148	74,481	△ 3,667

博物館利用者総数の推移 (博物館施設利用者の推移は、下の表のとおりである。)

(単位：人)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用者総数	85,104	89,291	79,428	76,847	73,773	66,558	67,346	69,790	71,738	78,148	74,481
常設展示観覧者数	16,231	16,267	15,828	13,596	13,623	15,637	15,474	16,968	17,052	17,593	15,942
企画・特別展示等観覧者数	22,073	20,619	20,071	21,762	21,369	17,447	17,882	19,432	20,431	23,220	19,288
(うち) 企画展観覧者数	4,265	6,270	4,001	4,330	1,993	5,766	2,885	2,576	2,641	3,809	2,917
その他展示観覧者数	17,808	14,349	16,070	17,432	19,376	11,681	14,997	16,856	17,790	19,411	16,371
講座・講演会等参加者数	2,374	2,264	2,395	2,159	3,384	2,802	3,368	3,259	3,291	3,052	5,999



6 来訪者(敬称略)

平成28年

- 4月26日 J:COM東葛・葛飾 取材
- 4月27日 J:COM東葛・葛飾 取材
- 4月29日 朝日新聞 取材
- 5月10日 東葛飾地区教育委員会連絡協議会 開催
- 5月25日 対馬市総合政策部観光交流商工課職員 視察
- 7月21日 朝日新聞 取材
柏市みどりの基金職員 視察
- 8月7日 産経新聞 取材
- 8月10日 J:COM東葛・葛飾 取材
- 8月12日 市立市川歴史博物館職員 視察
- 9月3日 千葉テレビ放送 取材
- 9月17日 読売新聞、毎日新聞、千葉日報 取材
- 9月21日 朝日新聞、NHK 取材
- 10月12日 産経新聞 取材
- 10月28日 国立民族学博物館職員 企画展視察
- 11月29日 テレビ朝日 取材
- 12月6日 産経新聞 取材
- 12月13日 東京新聞 取材

平成29年

- 1月11日 東葛飾地区明るい選挙推進協議会連絡会議 視察
- 1月12日 電通クリエイティブX テレビCM撮影
- 1月13日 電通クリエイティブX テレビCM撮影
- 3月24日 松戸市文化財審議会 視察

V 条例・規則

松戸市立博物館条例

(平成4年9月24日松戸市条例第28号)

(趣旨)

第1条 この条例は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(位置)

第2条 本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀671番地

(管理)

第3条 博物館は、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(事業)

第5条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (4) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (5) 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (6) 他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。
- (7) その他教育委員会が必要と認める事業

(観覧料)

第6条 博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納入しなければならない。

- 2 教育委員会は、特に必要と認める場合においては、前項の観覧料を免除することができる。
- 3 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還

することができる。

(入館の制限及び退館)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。
- (3) その他博物館の管理上支障があるとき。

(博物館協議会)

第8条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10名以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に規定するもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して8か月を越えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

(平成5年3月松戸市教育委員会規則第2号で、同5年4月29日から施行)

附 則(平成10年3月27日松戸市条例第11号)

この条例は平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年6月21日松戸市条例第23号)

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市条例第11号)

この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月29日松戸市条例第7号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分		観覧料(1人1回につき)	
		個 人	団体(20人以上)
常設展示	一般	300円	240円
	高校生・大学生	150円	100円
	中学生以下	無料	無料
企画・特別展示	次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料にあっては、無料とする。		
	(1)一般	1,200円	(共通観覧料については、1,440円)
	(2)高校生・大学生	600円	(共通観覧料については、700円)

備考

- 1 企画・特別展示とは、博物館において通常の展示品以外を展示する場合をいう。
- 2 共通観覧料とは、常設展示及び企画・特別展示を観覧することができる観覧料をいう。

松戸市立博物館管理運営規則

(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号)

(趣旨)

第1条 この規則は、松戸市立博物館条例(平成4年松戸市条例第28号。以下「条例」という。)第9条の規定により、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後4時30分までとする。

2 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

- (1) 月曜日
- (2) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで
- (3) 館内整理日(毎月第4金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「祝

日法による休日」という。)である場合は、この限りでない。

2 前項第1項の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

(観覧券の交付)

第4条 条例第6条第1項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券(第1号様式)を交付するものとする。

(観覧料の免除等)

第5条 条例第6条第2項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 高校生及び高校生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。
- (2) 博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。
- (3) 市内に居住する身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人が観覧するとき。
- (4) 市内に居住する70才以上の者が観覧するとき。
- (5) 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)第2条に定める日に観覧するとき。
- (6) その他教育委員会が必要と認めたとき。

2 観覧料の免除を受けようとする者で前項第1号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書(第2号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(観覧料の返還)

第6条 条例第6条第3項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書(第3号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第7条 教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

- (1) 国立博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設の設置者
- (2) 前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者

2 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出申請書(第4号様式)を教育委

員会に提出し、博物館資料貸出許可書(第5号様式)の交付を受けなければならない。

- 3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを延長することができる。

(文献等の閲覧等)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書(以下「文献等」という。)の閲覧又は複写(文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。)をさせることができる。

- 2 文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書(第6号様式)を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証(第7号様式)の交付を受けなければならない。

- 3 博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から1年とする。

- 4 文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書(第8号様式)により教育委員会の許可を受けなければならない。

(閲覧又は複写の制限)

第9条 教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。

- (1) 未公開および未整理のもの
- (2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの
- (3) 寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの
- (4) その他教育委員会が不相当と認めたもの

(入館者の遵守事項)

第10条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (2) 許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。
- (3) 所定の場所以外において喫煙し、飲食し、又は火気を使用しないこと。
- (4) 無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。
- (5) 他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。
- (6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会の指示に従うこと。

(所掌事務)

第11条 博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。
(職務)

第12条 館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

- 2 次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。

- 3 館長補佐は、館長及び次長を補佐する。

- 4 その他の職にある者は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

(博物館協議会の会長等)

第13条 条例第8条第1項に規定する博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(博物館協議会の会議等)

第14条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

- 3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 4 協議会は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

- 5 協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。

- 6 協議会の庶務は、博物館において処理する。

- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委任)

第15条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第5条第1項の改正規定は平成7年4月1日から、第11条に1号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附 則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号)
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号)
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号)
この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

- ・ 文書の收受、保存及び公印の管理に関する事。
- ・ 観覧料の徴収に関する事。
- ・ 予算、経理及び物品の管理に関する事。
- ・ 要覧及び年報の作成に関する事。
- ・ 財産の管理に関する事。
- ・ 施設及び設備の維持管理に関する事。
- ・ 博物館協議会に関する事。
- ・ 資料選定評価委員会に関する事。
- ・ 市史編さんに関する事。
- ・ 市史編さん委員会に関する事。
- ・ 関係団体との連絡調整に関する事。
- ・ 資料の収集、保存及び展示に関する事。
- ・ 資料の調査及び研究に関する事。
- ・ 資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関する事。
- ・ 資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関する事。
- ・ 資料に関する相談、情報提供に関する事。
- ・ 博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関する事。
- ・ 博物館資料の寄贈、寄託に関する事。
- ・ 他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関する事。
- ・ その他博物館の専門的事項に関する事。

第1号様式～第8号様式 省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例

(平成26年12月25日松戸市条例第28号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、松戸市立博物館等資料選定評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、松戸市立博物館及び松戸市戸

定歴史館における歴史に関する資料(以下「歴史資料」という。)の収集を適正かつ円滑に行うため、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 歴史資料の真がんに関する事項
- (2) 歴史資料の価格の適否に関する事項
- (3) 歴史資料の寄贈及び寄託の受入れ又は購入の適否に関する事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

2 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の専門的知識を有する者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。(特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例の一部改正)
- 2 特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例(昭和31年松戸市条例第15号)の一部を次のように改正する。
別表2に次のように加える。

松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員	日額 20,000円
---------------------	------------

※「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」については、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」(平成26年12月25日松戸市条例第28号)として条例化されたことに伴い、平成27年3月31日付で廃止となった。

松戸市史編さん委員会条例

(昭和55年3月26日松戸市条例第3号)

(設置)

第1条 郷土をより深く理解することによって市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、5人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

(招集及び会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、昭和55年4月1日から施行する。(松戸市誌編さん委員会条例の廃止)
- 2 松戸市誌編さん委員会条例(昭和28年松戸市条例第23号)は、廃止する。(松戸市役所部課設置条例の一部改正)
- 3 松戸市役所部課設置条例(昭和38年松戸市条例第3号)の一部を次のように改正する。
第2条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

(定数)

第2条 研究員の定数は、8人を超えない範囲内において、館長が定める。

(委嘱)

第3条 研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

(任期)

第4条 研究員の任期は、1年とする。ただし、年度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

(職務)

第5条 研究員は、次に掲げる職務に従事する。

- (1) 博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究
- (2) 学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究
- (3) その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

(会議)

第6条 館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年12月1日から施行する。

松戸市立博物館資料取扱い及び特別利用に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)における博物館資料(以下「資料」という。)の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、借入れ及び調査又は研究のための特別利用に関し、必要な手続を定めるものとする。

(寄贈の申込み)

第2条 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、資料の寄贈を受けるときは、寄贈の申込みをする者から資料寄贈申込書を徴するものとする。

(寄贈の承認)

第3条 教育委員会は、寄贈を受けることとなった資料を受領したときは、寄贈者に資料受領書を交付するものとする。

(寄託の申込み)

第4条 教育委員会は、資料の寄託を受けるときは、資料の寄託の申込みをする者から資料寄託申込書を徴するものとする。

(寄託資料の受託及び返還)

第5条 教育委員会は、寄託を受けることとなった資料を受領したときは、寄託者に資料受託証書を交付するものとする。

2 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の返還は、資料受託証書と引き替えに行うものとする。

(資料の一時預り)

第6条 教育委員会は、資料の寄贈又は寄託の申込みがあった場合において、資料の寄贈又は寄託の可否を決定するために必要と認めるときは、当該申込者に対し資料の一時預りを求めることができる。

2 教育委員会は、前項の場合において当該申込者が資料の一時預りを承諾したときは、資料と引きかえに資料一時預り証を交付するものとする。

(寄託期間)

第7条 寄託期間は、3年とする。

2 前項の寄託期間の起算日は、寄託を受けた日の属する年度の4月1日とする。

3 教育委員会は、寄託期間の更新をするときは、寄託者から新たに資料寄託申込書を徴するとともに、寄託者に新たに資料受託証書を交付するものとする。

(寄託期間内の返還)

第8条 教育委員会は、寄託期間満了前であっても、寄託者から寄託資料期間内返還申込書の提

出があったときは、寄託資料の返還に応ずるものとする。

(寄託資料の一時返還)

第9条 教育委員会は、寄託資料の一時返還をするときは、寄託期間中に寄託者から寄託資料一時返還申込書を徴するものとする。

2 一時返還の期間は、60日を限度とする。ただし、特別の事由がある場合は、その期間を延長することができる。

3 一時返還の期間中における寄託資料の管理については、教育委員会は、その責を負わない。

(寄託資料の所有者変更)

第10条 教育委員会は、寄託者が寄託資料の所有権を移転する場合においては、寄託者から寄託資料所有者変更届を徴するとともに、受託証書の返還を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は寄託者の死亡に伴い相続が発生したときは、相続により当該寄託資料の所有権を取得した者から、寄託資料所有変更届を徴するものとする。

(受託証書の再交付)

第11条 教育委員会は、前条の規定により寄託資料の所有者の変更が生じた場合は、受託証書の再交付を行うものとする。

2 教育委員会は、寄託者が受託証書を亡失、滅失又は破損した場合は、寄託者にこれらの事由を記載した書面によって受託証書の再交付を申請させるものとする。

(資料の館外貸出し)

第12条 資料の館外貸出しについては、松戸市立博物館管理運営規則第7条に定めるもののほか、次条及び第14条の規定によるものとする。

(資料の館外貸出条件)

第13条 教育委員会は、資料の館外貸出しをしようとするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

(1) 貸出しを受けた者(以下「借受人」という。)は、貸出しを受けた資料(以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。

(2) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の資格を有すると認められる者が行うこと。

(3) 貸出し期間中に貸出資料の保管等のために要する費用は、全て借受人の負担とすること。

(4) 借受人は、貸出資料を貸出目的以外の用に供してはならない。

(5) 貸出資料を展示する場合は、原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を

明示すること。

- (6) 借受人は、貸出資料を滅失し、又はき損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。
- (7) 借受人は、資料借用申込書に記載した事項を遵守すること。
- (8) 借受人において、貸出条件に違反する行為があるとき又は特別の事由が生じたときは、貸出期間中であっても貸出を取り消す場合があること及びこの場合において生じた損害については、教育委員会はその責を負わないものであること。
- (9) 博物館職員の指示に従うこと。
- (10) その他必要と認められる条件

(借用書の徴収)

第14条 教育委員会は、貸出資料と引き替えに借受人から資料借用書を徴するものとする。

(資料の借入れ)

第15条 教育委員会は、博物館における展示、研究等のために資料の借入れをするときは、借入れする資料(以下「借受資料」という。)の受領の際、資料預り証を資料の貸主に交付するものとする。

(借受資料の返還)

第16条 借受資料の返還は、資料預り証と引き替えに行うものとする。

(特別利用の申込み)

第17条 資料について、調査、写真撮影等の特別な利用(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、資料特別利用申込書(寄託資料にあっては資料特別利用申込書及び所有者の承諾書)を教育委員会に提出して申込まなければならない。

(特別利用の承認)

第18条 教育委員会は、前条の申込みがあった場合において、資料の特別利用を承認したときは、当該申込者に資料特別利用承認書を交付するものとする。

(特別利用の条件)

第19条 教育委員会は、特別利用の承認をするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

- (1) 資料の特別利用申込書に記載した目的以外の用に供してはならないこと。
- (2) 出版物等に掲載する場合は、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
- (3) 出版物等に掲載する場合は、博物館(寄託資料にあっては、博物館及びその所有者)に出版物等を寄贈すること。
- (4) 博物館職員の指示に従うこと。

(5) その他必要と認める条件

(申込書等の様式)

第20条 この要綱の施行に関し必要な申込書等の様式は、別表の定めるところによる。ただし、特に必要と認める場合は、これらの様式に準じたものをもって手続をすることができる。

(委任)

第21条 この要綱の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成5年12月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行前になされた資料の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、特別利用その他の手続については、この要綱の相当規定によりなされたものとみなす。

松戸市立博物館紀要投稿規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 投稿時において松戸市立博物館の職員である者
- (2) 投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
- (3) 過去において松戸市立博物館の職員であった者
- (4) 松戸市立博物館が投稿を依頼した者
- (5) その他松戸市教育委員会が適当と認めた者

(審査)

第3条 原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程(平成23年10月1日施行。以下「査読規程」という。)にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)で査読の上決定し、著者に通知するものとする。

(投稿区分と枚数)

第4条 紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 論文 70枚以内(400字詰原稿用紙換算)
 - (2) 研究ノート 50枚以内(同上)
 - (3) 資料紹介 30枚以内(同上)
 - (4) その他 編集委員会の定めるところによる
- 2 前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。

3 投稿する原稿は、未発表のものに限る(刊行予定のものは既発表とみなす)。

(投稿形式)

第5条 投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

2 前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めたときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、4部とする。

3 前2項の原稿を投稿するときは、図1に示す投稿票を添付するものとする。

(締切)

第6条 投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

(校正)

第7条 原稿が受理された後の本文の書き直しは、校正(明らかな誤字脱字を訂正することをいう。)を除き、これを認めない。

2 前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領(以下「執筆要領」という。)にもとづいて形式を訂正することを含む。

3 著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

(別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈)

第8条 著者には著作が掲載された号の紀要を5部贈呈する。

2 別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附則

この規定は、平成23年10月1日から施行する。

附則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

図1(用紙規格 J I S A 5)

投稿票

氏名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数(400字詰 原稿用紙換算)	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

(1) 松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。

(2) その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

(構成)

第3条 編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから2名以上の者を松戸市立博物館長(以下「館長」という。)が指名する。

2 編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

(会議)

第4条 編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

(意見の聴取)

第5条 編集委員会は、会議に編集委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(査読)

第2条 松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介(以下「論文等」という。)について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

2 編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

(査読方法)

第3条 編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表1に掲げる事項について評価を行う。

(判定)

第4条 編集委員会は、前条の評価に基づいて別表2に掲げる4段階の判定を行う。

2 前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表2

1 掲載可(再審査不要)

- (1) このままで掲載可
- (2) 指摘箇所訂正後に可

2 修正後再審査

- (1) 書き直し後に再審査
- (2) 投稿区分の変更を必要とする

3 掲載否

- (1) 既発表部分が多い
- (2) 「松戸市立博物館紀要」として不適當
- (3) 内容不可

4 判定不能

- (1) 一部他分野の専門家の判断を必要とする
- (2) その他

別表1

1 形式

- (1) 表題・副題の適切さ
- (2) 章・節等の全体構成の適切さ
- (3) 原稿枚数の適切さ
- (4) 投稿区分の妥当性

2 内容

- (1) 素材及び資料の妥当性、提示方法
- (2) 論理展開の明確さ
- (3) 内容の正確さ、完成度
- (4) 結論の提示方法

3 図表等

- (1) 図表の必要性
- (2) 図表の作成、説明の適切さ

4 文献

- (1) 参照文献の妥当性、引用の適切さ

5 表現

- (1) 文章の表現力、読みやすさ

職員名簿（平成28年4月1日現在）

館長（非常勤）	望月 幹夫
次長	加藤 和彦
館長補佐・学芸員	山田 尚彦
館長補佐	大関 ちひろ 〈※平成28年4月1日昇任〉
主任主事	渡辺 宏一
主事	坪内 知世
主事	永井 勇輔
主幹・学芸員	中山 文人
主幹・学芸員	青木 俊也
主査・学芸員	大森 隆志
主査・学芸員	柏木 一朗
主任主事・学芸員	小林 孝秀
主任主事・学芸員	富澤 達三

人事異動

〈平成28年4月1日〉（かっこ内は転出後・転入前の所属）

転出：次長	林 総太郎（生涯学習推進課）
館長補佐	秋谷 昌子（指導課）
再任用	鈴木 和喜（市民課）
転入：次長	加藤 和彦（監査委員事務局）
館長補佐	大関 ちひろ（市民税課）
主任主事	渡辺 宏一（文化振興財団）

〈平成28年3月31日〉

退職：再任用	中村 実
--------	------

松戸市立博物館年報 第24号

発行日 平成29年8月31日
編集発行 松戸市立博物館
松戸市千駄堀671番地（〒270-2252）
電話 047-384-8181（代表）
http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/
印刷 株式会社 弘文社

Printed in Japan, 2017©MATSUDO MUSEUM



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM